

平成30年度決算付属資料

I 主要な施策の成果に関する説明書

II 基金の運用状況を示す書類

武蔵野市

I 平成30年度主要な施策の成果に関する説明書

地方自治法第233条第5項の規定に基づき、平成30年度における主要な施策の成果に関する説明書を提出します。

武蔵野市長 松下玲子

平成30（2018）年度は、第五期長期計画・調整計画の3年目として、「誰もが住み続けられるまちへ 新たな未来につなぐ予算」と位置付け、令和2（2020）年度からの10年間で展望した第六期長期計画の策定を進めながら、第五期長期計画・調整計画に掲げられた各分野の施策を着実に推進するとともに、新たな行政課題にも柔軟に対応し、市民福祉の向上に取り組んでまいりました。

子ども・子育てを応援するまちの実現に向け、喫緊の課題となっている保育所の待機児童解消を目指し、平成31（2019）年4月に開設した認可保育所3園の整備について支援を行いました。保育施設の定員は233人増えて3,475人となり、平成31（2019）年4月1日の待機児童数は、前年度より6人減の47人となりました。また、吉祥寺地域の病児・病後児保育施設の整備に対して支援を行い、3駅圏全てで病児又は病後児に対応する保育施設が整備されました。

学校教育においては、ここ数年増加傾向にある不登校児童生徒への総合的な対策を検討する不登校対策検討委員会を設置し、本市における不登校対策の基本的な考え方及び今後の具体的な取組みについてまとめました。また、不登校傾向にある児童・生徒の登校支援や登校後の個別支援を行う「学校と家庭の連携推進事業」の実施校を4校から10校に拡充し、不登校に早期に対応する体制づくりを進めました。

平成30（2018）年は大阪北部地震、7月豪雨、北海道胆振東部地震と、自然災害が相次ぎました。被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。阪神淡路大震災や東日本大震災、熊本地震、新潟県糸魚川市での大規模火災などの大災害を教訓に、各地で減災への取組みが行われています。東日本大震災発生から8年経ちましたが、被災地の復興支援として、引き続き職員を派遣し復興支援を続けてきました。

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちの実現を目指し、平成30（2018）年度からスタートした「武蔵野市第5期地域福祉計画」に基づき、地域における住民同士の支え合いを推進していくため、その取組みの指針となる活動計画を策定し、まちぐるみで支え合う仕組みづくりを進めました。

次に、平成30（2018）年度の一般会計歳入歳出決算の概要を申し上げます。

歳入決算額は665億1,678万6千円で、前年度と比べ2億161万円、0.3%の減となりました。市税収入は、408億1,346万8千円で、前年度と比べ7億8,953万9千円、2.0%の増となりました。個人市民税はふるさと納税の影響が約5億円となったものの、納税義務者数の増等により前年度と比べ2.2%の増となりました。法人市民税は、税制改正の影響等により、前年度と比べ5.8%の減となりました。公園建設事業や総合体育館の改修工事等が終了したことなどにより基金からの繰入金が減となり、繰入金全体では前年度と比べ37.9%の減、市債は前年度と比べ77.2%の減となっています。

歳出決算額は636億9,351万3千円で、前年度と比べ1億4,921万2千円、0.2%の減となりました。障害者自立支援給付等事業や保育サービスなどにかかる扶助費が前年度と比べ4億2,939万4千円、2.8%の増となりましたが、公園建設事業や総合体育館改修工事など

の減により、投資的経費が前年度と比べ5億9,797万7千円、8.1%の減となりました。

また、これに対し、国・都支出金の確保、世代間の負担の公平性や後年度の財政負担などに配慮した市債の活用、基金の取り崩しなどにより必要な財源を確保し、適正な財政運営に努めてまいりました。

平成30（2018）年度の歳入歳出差引額は、28億2,327万3千円、次年度への繰越財源5,591万1千円を除いた実質収支額は、27億6,736万2千円、前年度比9,379万5千円、3.3%の減となりました。

現在の財政状況は健全な水準を維持しているといえますが、今後は人口構成の変化が予測されており、市税などの歳入は減少し、歳出では社会保障費にあたる扶助費や保険給付費の増加、老朽化した公共施設及び都市基盤の更新費用などが増加することが見込まれています。

行財政改革を進め健全な財政を維持しつつ、新たな課題に対応しながら、子ども・子育てを応援し、誰もが住み続けられるまち武蔵野へ、全力で取り組んでまいります。

以下、平成30（2018）年度の主要な施策の成果について申し上げます。

I 健康・福祉分野の成果

【誰もが地域で安心して暮らしつづけられる仕組みづくりの推進】

医療と介護の両方を必要とする高齢者などが安心して在宅での生活を送ることができるよう、在宅医療・介護連携推進協議会や医療と介護関係者の多職種連携を推進する合同研修会を開催するとともに、在宅療養に関する講演会を開催し、市民への普及・啓発を行いました。

高齢者等緊急訪問介護（レスキューヘルパー）事業では、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯の方が急病などで一時的に支援が必要な場合にヘルパーを派遣し、入浴介助等の身体介護や生活援助（掃除、洗濯、買い物）のサービスを提供しました。

【支え合いの気持ちをつむぐ】

シニア支え合いポイント制度では、平成29（2017）年度獲得分ポイントの還元を行うとともに、制度の説明会兼研修会を実施し、シニア支え合いサポーターは総計339人、協力施設・団体は19施設となりました。また、平成31（2019）年3月には、学識経験者、地域福祉関係者、協力施設、シニア支え合いサポーターなどによって構成されるシニア支え合いポイント制度推進協議会を開催し、情報の共有と課題の整理を行うなど制度の拡充を図りました。

【誰もがいつまでも健康な生活を送るための健康づくりの推進】

妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を進め、子ども一人ひとりが健やかに成長することを目的に、保健師などの専門職が、妊産婦とその家族に寄り添い支援を行いました。また、新たに産後電話や産後支援訪問事業、ゆりかごむさしのフェスティバルを開始するなど、産後早期の支援を拡充しました。

予防接種については新たにおたふくかぜ予防接種の費用助成を実施したほか、高齢者インフルエンザ予防接種を近隣4自治体に加え、西東京市の医療機関でも受けられる体制を整備しました。

平成28（2016）年の自殺対策基本法の改正に伴い、都道府県及び市区町村に地域自殺対策計画の策定が義務付けられたことを機に、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指すため、「武蔵野市自殺総合対策計画 ～こころ・いのち 支え合うまち むさしの～」を策定しました。

【誰もが地域でいきいきと輝けるステージづくり】

福祉サービスの拡充や地域福祉活動の推進に向け、専門職や地域の担い手も含めた福祉人材の育成と確保を目的に、「地域包括ケア人材育成センター」を平成30（2018）年12月1日に開設し、「活かす」「育てる」「つなぐ」「支える」の4つの機能をもたせ、人材

の発掘・養成、質の向上、相談受付や情報提供までを一体的に行う、総合的な支援を開始しました。

【住み慣れた地域での生活を継続するための基盤整備】

今後さらに高まる医療ニーズに対応していくため、在宅の中重度の要介護者を支える方策として医療機能を併設した小規模で多機能なサービスを充実させることを目的に、看護小規模多機能型居宅介護施設の開設に向けて支援を行いました。平成30（2018）年12月、関前2丁目に市内初となる「ナースケアたんぼぼの家」が開設されました。

また、精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向け、平成30（2018）年5月に市内2か所目となる精神障害者グループホームが西久保に開設されました。運営はNPO法人ミューが担っています。

そして、障がいのある方が、「わたしらしく 武蔵野で くらす」ことを実現するため、平成31（2019）年3月に市内初となる障害者支援（入所）施設「障害者地域生活支援ステーション わくらす武蔵野」を、吉祥寺北町に整備しました。入所支援のほか、生活介護、短期入所、相談・居宅支援などを併設し、地域生活支援拠点として位置づけられた複合施設で、運営は社会福祉法人武蔵野が担っています。

Ⅱ 子ども・教育分野の成果

【子ども自身の育ちと子育て家庭への総合的支援】

保育の質の向上の取組みとして、保育従事者を対象とした研修を継続したほか、重大事故防止のための巡回支援指導員の配置等による指導検査体制の充実、保育総合アドバイザーや保育相談員の充実等により、保育の質の更なる向上を図りました。

病児・病後児保育施設がなかった吉祥寺地域において、認証保育所と併設するかたちで病児・病後児保育施設の整備を行いました。3駅圏全てで病児又は病後児に対応する保育施設が整備されたことにより、利便性の向上を図ることができました。

また、子ども家庭支援センターでは、子どもとその家庭に対する相談事業や子育てショートステイ等を実施し、子育て支援ネットワークの中核機関として関係機関の連携を進め、児童虐待の防止及び子育てに不安を持つ家庭の支援を行いました。

【青少年の成長・自立への支援】

日常生活・学校生活、進路などに悩みを持つ青少年を対象として、若者サポート事業やプレーパーク事業などの居場所づくり事業及び相談事業を行い、社会参加、自立に向けた支援を行いました。

市立自然の村では、安定的に水の供給を行うため水道施設の増設工事を行ったほか、中央棟外壁一部張替、天体施設外壁塗装塗替などを行い、施設の改善を図りました。

学童クラブ事業では、障害児枠入会児童について対象を5年生まで拡大するとともに、入会児童数の増加に対応するため、五小及び本宿小学童クラブの増設を行い、定員の拡充

を図りました。

【子ども・子育て家庭を支援する体制・施設の整備】

幼児教育を希望する保護者の負担を軽減するため、平成30（2018）年度から幼稚園の入園料補助金を50,000円に増額し、教育・保育施設利用の選択の幅を広げました。また、私立幼稚園における預かり保育を新制度に基づく幼稚園型一時預かり事業に移行を促すとともに、長時間保育を必要とする家庭も幼稚園を利用しやすくするため、概ね年間250日開園するなど充実した事業を行っている幼稚園に対して補助を行いました。

【次代を担う力をはぐくむ学校教育】

本市の教育の現状と課題を整理し、目指す方向を明らかにすることを目的に、令和2（2020）年度からの5か年を計画期間とする「第三期学校教育計画」を策定するため、策定委員会を設置しました。また、子ども生活実態調査や教職員アンケートを実施し報告書にまとめました。

小中一貫教育については、小中一貫教育検討委員会の答申を受け、小中一貫教育あり方懇談会を設置し、実施の是非について全市的な議論を進めました。懇談会からは、すべての小学校区単位での施設一体型小中一貫教育は実施するべきではないこと、また、小中連携教育を含む教育課程の充実や、更なる学校における福祉機能の強化等により、これまで教育委員会が示してきた「これからの武蔵野市の学校教育に求められる目的、目標を追求するべき」と判断した、という報告を受けました。

市立小・中学校の児童生徒数が増加傾向にあることから、適切な学習指導環境を確保するため、学区編成審議会を設置し、学区見直しの検討を実施しました。保護者や地域関係団体への説明・意見募集等を経て、桜野小学校・第二小学校・第二中学校・第六中学校の学区を一部変更することを決定しました。

教職員の多忙化解消の対策として、教職員の勤務時間を適正に把握するため、教職員1人に1枚ICカードを貸与するとともに、ICカードを利用したタイムレコーダーを小・中学校全校に設置しました。あわせて、出退勤管理システムを導入し、教職員の勤務状況の把握に努めました。

特別支援教室運用体制の強化を図るため、平成29（2017）年度から導入した小学校の特別支援教室における課題を検証し、個々の教育的ニーズに応じた指導・支援の体制づくりを進めるため、大学の研究室と連携して実践的調査研究を行いました。

児童・生徒数の増加を見据え、市立小・中学校に給食を安定的に供給するため、本宿小学校の調理施設の改修工事を行いました。また、学校給食桜堤調理場の建替えに向けて、新施設の基本設計を終え、実施設計に着手しました。

Ⅲ 文化・市民生活分野の成果

【地域社会と市民活動の活性化】

「コミュニティ未来塾むさしの」は、地域でさまざまな団体が連携してコミュニティづくりを進めるためのスキルを身につける「学び」の場として、第四期、第五期の連続講座を実施し、市民と職員がともに考え、学びました。

コミュニティセンターのバリアフリー化を促進し、だれもが利用しやすい施設とするため、御殿山コミュニティセンターのエレベーター設置工事を行うとともに、けやき、桜堤の両コミュニティセンターのエレベーター設置に向けた実施設計を行いました。

【互いに尊重し認め合う平和な社会の構築】

戦争の悲惨さや平和の尊さを次世代に伝えていくため、実行委員会とともに様々な平和啓発事業を実施しました。8月には、夏季平和事業として映画会や読み聞かせ、パネル展などを、また11月には、平和の日イベントとして講演会のほか戦時中の食の体験などを開催し、平和意識の向上を図りました。

5月の憲法月間記念行事では、市民に憲法への関心と認識を深めてもらう講演会を行いました。

武蔵野市男女平等の推進に関する条例に基づき武蔵野市男女平等推進審議会の答申を受け、「第四次男女平等推進計画」を策定しました。

【市民文化の醸成】

文化を振興し、文化で地域を発展させていくことを目指して、「文化振興基本方針」を策定しました。

一般財団法人自治総合センターから助成を受け、これまで吉祥寺シアターを訪れたことの無い地域の人々に、劇場を知り、訪れてもらうことを目標に、本市ゆかりのアーティストであるキン・シオタニ氏や美内すずえ氏によるトークショー等を実施し、延1,000人以上の参加がありました。

実行委員会方式による企画・運営で、“「描かずには／創らずにはいられない」ストーリーに迫る”をテーマに、既成の表現方法にとらわれずに独自の方法と発想で制作された美術作品（アール・ブリュット）展を開催しました。

【市民の多様な学びやスポーツ活動への支援】

吉祥寺図書館のリニューアル開館に併せ、同館に指定管理者制度を導入し、開館日・開館時間を拡大しました。年間来館者数は約4割増え、約60万人となりました。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等に向けた武蔵野市実行委員会においては、4つの分科会で市民が主体となって活動していくための意見交換を行い、多くの事業に取り組みました。また、「Sports for All」イベントを開催してスポーツ振興を図るとともに、体験や体感を通して市民が感動を得る機会の提供を行いました。

市立小・中学校ではオリンピック・パラリンピック教育支援として、2020年大会を目指

す障害者アスリート、パラリンピック競技団体、オリンピックによる体験学習を通して、パラスポーツと障がいの理解の醸成、運動能力・体力の向上に努めました。

陸上競技場においては、5年毎に更新が必要な陸上競技場の第三種公認検定を受けるための改修工事や備品の整備を行いました。

【地域の特性を活かした産業の振興】

「産業振興計画」については、前年度に実施した基礎調査の内容を踏まえ、市内の産業振興施策の方向性について具体的な検討を行い、改定を行いました。

三鷹市、小金井市と連携し、3市の行政・観光団体・市民・事業者が連携してそれぞれが持つ経験やノウハウを生かし、共通に持つ資源を発掘・活用するために、市民や事業者の交流の活性化・地域資源の調査研究・情報発信・パイロット事業の検討等を行いました。

貴重な農地を保全し、意欲ある次世代の担い手への農業の継承を支援していくために、認定農業者に対し生産・加工施設や農業用機械などの施設整備に要する費用の一部を補助しました。

【都市・国際交流の推進】

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会におけるルーマニアのホストタウンであることを市民に啓発するため、ブラショフ市へ文化交流市民団を派遣し、ブラショフ市民に日本文化の発信、ホストタウン・友好都市の周知を行うとともに、市民同士の交流を深めました。また、ルーマニアパラアスリート応援募金を活用してパラアスリートら6人の選手団を招聘し、強化練習の支援、学校訪問や市民交流会を行いました。

【災害への備えの充実と多様な危機への対応の強化】

固定系防災行政無線のデジタル化については、平成29（2017）年度に設計を行い、平成30（2018）年度より3か年の工事で実施しています。工事の初年度となる平成30（2018）年度は、親局、統制台及び拡声子局2基の工事を実施しました。また、MCA無線を補完するため、IP無線機58台を整備しました。

吉祥寺駅周辺施設等と一時滞在施設としての利用に関する協定を締結したことにより、受け入れ可能な帰宅困難者数が増加しました。これに伴い、増加分と合わせて4,000人分の帰宅困難者対策用備蓄品の整備を平成29（2017）年度から進めており、平成30（2018）年度は飲料水と食料（クラッカー）の整備を行いました。

消防団第4分団詰所を改築するため、吉祥寺北町2丁目に仮詰所を建て、分団機能を仮詰所に移し、第4分団詰所の解体を行いました。

住宅の耐震化については、令和2（2020）年度末までに住宅の耐震化率95%を達成するため、住宅やマンションの耐震化に要する費用の一部助成や専門家を派遣し住宅の耐震化を支援するとともに、「耐震化緊急促進アクションプログラム」に基づいた戸別訪問等普及啓発活動を実施しました。

Ⅳ 緑・環境分野の成果

【市民の自発的・主体的な行動を促す支援】

「環境啓発施設エコプラザ（仮称）」については、検討市民会議において、施設の理念や機能、運営、空間利用などについて検討を行ったほか、パブリックコメント等による市民意見をもとに、「武蔵野市エコプラザ（仮称）の整備に向けた市の基本的な考え方」を作成しました。さらに、オープンハウス等を実施し、平成31（2019）年3月に「武蔵野市エコプラザ（仮称）管理運営方針」を決定しました。

むさしの環境フェスタでは、市内で活動する環境団体や事業者、市役所各課によるブース出展やワークショップ等を通じて、市民等への環境啓発を行いました。

【環境負荷低減施策の推進】

武蔵野クリーンセンターのごみ発電による電気について、地産地消エネルギーのより効果的な利用のあり方を検討しました。また、買い替えの時期を迎えた庁用車について、ガソリン車から電気自動車に切り替え、燃料費削減及びCO₂排出削減と同時に、電気自動車の充電には、クリーンセンターのごみ発電による夜間電力を有効活用し、エネルギーの地産地消を推進しました。

HEMS（ホームエネルギーマネジメントシステム）・太陽エネルギー利用設備・蓄電システム・窓断熱設備等の設置に係る費用を一部助成し、家庭のエネルギーの見える化とCO₂排出量の削減を図りました。

【「緑」を基軸としたまちづくりの推進】

学識経験者を交えた緑の基本計画検討委員会において、方針や施策などについて議論し、パブリックコメントなどの実施を経て、「緑の基本計画」の改定を行いました。

公園等建設事業では、子どもたちの遊び場の充実を図るため、西久保公園の木製複合遊具の更新を行ったほか、「バリアフリー基本構想後期特定事業計画」に基づき境南ふれあい広場公園に視覚障害者誘導用ブロックを設置するとともに、南町苗木畑公園の公有地化を図りました。

千川上水整備事業では、身近な自然とふれあう場として、地域に愛され親しまれる魅力ある水辺空間を創出することで緑と水のネットワーク形成を推進するため、次年度以降の整備予定区間（緑町三丁目区間）について予備設計を行いました。また、更新橋から西北浦橋までの環境整備を行いました。

また、平成29（2017）年度に策定した「生物多様性基本方針」に基づき、体系的な生物生息状況調査を実施しました。

【循環型社会システムづくりの推進】

ごみの行政収集に係る、環境負荷の削減と収集事業効率化に資する事業見直しについて、ごみ収集の在り方等検討委員会において検討し、最終報告書がまとまりました。これを受け、平成31（2019）年4月から、資源ごみの一部について収集頻度等を見直すこととし、

それに向けた準備を進めました。

武蔵野クリーンセンター建設事業については、旧クリーンセンター工場棟、事務所棟3階の解体を完了し、引き続き新管理棟及び連絡通路等の建設工事、工事監理委託等を行いました。また、第四期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会で引き続き市役所北エリアの整備、周辺まちづくりのあり方等の検討を行い、報告書にまとめました。

V 都市基盤分野の成果

【地域の特性に合ったまちづくりの推進】

「都市計画マスタープラン」を令和2（2020）年度に策定するため、現行計画の進捗状況や前回改定からの変化、課題等の把握、策定検討体制、市民参加手法、進捗確認手法等の検討を行いました。また、まちづくり委員会へのヒアリングも実施しました。

良好な都市景観の創出や安全で快適な歩行空間の確保を図るため、「景観整備路線事業計画」に基づき、市道第85号線（アジア大学通り）など3路線の電線類地中化の設計等を行いました。

【都市基盤の更新と道路ネットワークの整備】

街路灯の照度アップによる安全安心の向上及びCO₂排出量削減等による環境負荷の軽減を図るため、平成30（2018）年度は1,927基の小型街路灯をLED化しました。

生活道路改修の際に、透水性舗装を施工し、雨水の流出抑制や地下水の涵養を行うとともに、計8基の道路浸透柵の新設を行いました。

また、平成29（2017）年度に第三次みちづくり・まちづくりパートナー事業に採択された武蔵野都市計画道路3・4・2号線（天文台通りの一部）の事業化に向けた事業概要と測量に関する説明会を開催し、用地測量を実施しました。また、予備設計と並行して警視庁と計画協議を行い、事業認可申請を行いました。

【利用者の視点を重視した安全で円滑な交通環境の整備】

自転車や歩行者などがより安全に利用できる環境を創出するため、「自転車走行環境づくり推進計画」に基づき、市道第73号線（境南通り）など、市内6路線について整備しました。

市内の主要交差点における交通状況の経年変化や交通流動の傾向及び幹線道路を避けて生活道路に流入してくる通り抜け車両の交通実態、時間変動等を把握し、交通施策や計画策定の基礎資料とするため、生活道路等交通量調査を行いました。

【下水道の再整備】

下水道施設全体の中長期的な施設の状態を予測しながら、維持管理・改築を一体的に捉えて計画的かつ効率的な管理を行っていくため、令和元（2019）年度の「下水道ストック

マネジメント計画」の策定に向けて、実施方針の検討を行いました。

「下水道長寿命化計画」に基づき、本市の広範囲の処理区を受け持つ主要な管きよである女子大通り幹線について、6か年計画の最終年度として更生工事を実施しました。

臭気抑制対策助成事業では、吉祥寺活性化協議会を通じ、街と連携して臭気対策に取り組み、悪臭の原因となる地下排水槽（ビルピット）の改修・改善に係る費用の一部を助成し、臭気の軽減を図りました。

【住宅施策の総合的な取り組み】

平成29（2017）年度に実施した空き家等実態調査から把握した空き家等の状況や所有者等の意識やニーズ等を踏まえ、空き家を重要なストックにとらえ、各分野と横断的な連携を進めながら、空き家等になる前から対策を講じていく予防対策に重点を置きつつ、適正管理や利活用を含めた計画を策定しました。

【三駅周辺まちづくりの推進】

吉祥寺南口駅前広場整備事業については、道幅が狭く、バスと歩行者の接触の危険があるパークロードからバスの通行をなくし、歩行者優先の安全な道路を形成するため、吉祥寺駅南口に約1,900㎡の交通広場を整備することを目指し、警視庁との協議に基づき基本設計を行うとともに、用地折衝を継続的に進めました。

また、策定から約10年が経過した「吉祥寺グランドデザイン」の令和元（2019）年度の改定に向けて、改定委員会、4エリアごとのワークショップ、庁内関係部署などによる丁寧な議論を重ねるとともに、オープンハウスを実施し、トークセッションとパネル展示を行いました。

三鷹駅周辺においては、土地利用、交通環境を検討し、交通量調査を実施しました。地元の意見交換会や三鷹駅北口街づくりビジョン推進庁内委員会を開催し進捗管理を行いました。

武蔵境駅周辺においては、武蔵境駅南口駅前広場改修工事を実施し、老朽化した舗装を改修するとともに、バスの正着や視覚障害者誘導用ブロックの改良などを行うと同時に、各種サインを整理・集約し、公共交通乗り場案内や駅周辺施設への誘導・案内情報を提供できるよう、市内3駅と同様のデザインの総合案内板を新たに設置し、武蔵境駅周辺におけるバリアフリー化を推進しました。

【安全でおいしい水の安定供給】

災害時にも安全な水の安定供給ができるよう、配水管の新設や老朽管の更新など配水管路の耐震化を図りました。また、円滑で効率的な水運用のため、経年劣化した浄水場施設を施設保全計画に基づき、維持・更新するとともに、安定的な取水量を確保するため、水源施設更新計画に基づき、深井戸の更新工事を行い、安全でおいしい水の安定供給を図りました。

VI 行・財政分野の成果

【市政運営への市民参加と多様な主体間の柔軟な連携と協働の推進】

「自治基本条例（仮称）」の検討については、学識経験者、市議会議員、市民公募委員、副市長で構成する武蔵野市自治基本条例（仮称）に関する懇談会において、平成30（2018）年2月に公表した条例骨子案素案に対して市民・議員・職員からいただいた意見を踏まえ、条例に盛り込むべき内容をまとめた骨子案の報告を受けました。報告を受けた骨子案を市の骨子とすることを決定し、条例の素案の作成を進めました。

【市民に届く情報の提供と市民要望に的確に応える仕組みづくり】

市民との対話を通じて、様々な意見や提案を聴き、今後の市政運営に活かすため、市民と市長のふれあいトークを実施しました。テーマ別では、市内で活動している団体や個人と特定のテーマについて意見交換を行い、地域別においてはコミュニティ協議会と共催し、当該地域における地域課題等、参加者との対話を通じ市民ニーズの把握等を行いました。

【公共施設の再編・市有財産の有効活用】

「公共施設等総合管理計画」の周知を目的にワークショップを開催し、参加者同士でグループに分かれ、身近なサービスや公共施設などをテーマに、意見交換を行いながら、提案ポスターにまとめてポスターセッション形式で発表・共有しました。

【社会の変化に対応していく行財政運営】

令和2（2020）年度からの10年間を展望した「武蔵野市第六期長期計画」を策定するため、第六期長期計画策定委員会を設置し、多様な市民参加を実施しながら検討を進めました。平成31（2019）年2月に討議要綱を公表し、パブリックコメント等を実施しました。

議案、議案関連資料及び行政報告資料等について、タブレット端末を使用して迅速かつ効率的に情報伝達を行いました。

また、情報システムについては、運用コスト低減化とシステムリソースの利用効率化、セキュリティ向上や拡張性向上を目的に、住民情報と内部統合のシステム基盤を現状から最適化した新統合仮想化基盤を整備しました。

以上、平成30（2018）年度の主要な施策の成果についてご説明申し上げます。なお、施策ごとの決算額については、成果一覧表をご参照いただければと存じます。

よろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。

平成30年度主要な施策の概要と成果一覧

I 健康・福祉

(1) 支え合いの気持ちをつむぐ

(金額欄における予算は当初予算を計上)

事業名		金額(千円)		施策の概要と成果
1	避難行動支援体制の整備	予算 決算	2,677 1,991	市内を13地区に分けて、災害発生時の安否確認を速やかに行うための体制づくりを行っている。災害時要援護者は、住民基本台帳と連動したシステムで名簿の管理を行っている。避難行動要支援者名簿を平成31(2019)年2月に更新し、各避難所に保管している名簿と入れ替えを行った。更新後の避難行動要支援者名簿登載者数は2,794人。名簿登載者には、登載された旨の通知を送付した。
	《民生費○一般管理経費、○社会福祉協議会事業》 [地域支援課]			
2	シニア支え合いポイント制度の拡充	予算 決算	3,920 3,704	平成30(2018)年度に、平成29(2017)年度獲得分ポイントの還元を行い、還元者120人、還元ポイント4,290ポイントであった。平成30(2018)年度はシニア支え合いポイント制度の説明会兼研修会を12回実施し、97人が制度登録を行い、総計で339人がシニア支え合いサポーターとなった。協力施設・団体は平成30(2018)年度に19施設となった。事業の管理運営は武蔵野市民社会福祉協議会に委託。 また、平成31(2019)年3月には、学識経験者、地域福祉関係者、協力施設、シニア支え合いサポーターなどによって構成されるシニア支え合いポイント制度推進協議会を開催し、情報の共有と課題の整理を行った。
	《民生費○一般管理経費》 《介護保険事業会計 総務費○一般介護予防事業費》 [地域支援課]			
3	市民社会福祉協議会40周年記念事業	予算 決算	2,000 2,000	市民社会福祉協議会の法人化40周年を迎えるにあたり、実行委員会を立ち上げ、平成30(2018)年7月8日に市民文化会館大ホールにて記念式典・記念公演の開催、功労者の表彰を行った。あわせて、記念誌を発行した。
	《民生費○社会福祉協議会事業》 [地域支援課]			
4	第4次地域福祉活動計画策定	予算 決算	5,000 5,000	平成30(2018)年度からスタートした武蔵野市第5期地域福祉計画を受け、地域における住民同士の支え合いを推進していくため、その取組み指針となる活動計画を策定した。策定にあたり、策定委員会を9回実施し、平成30(2018)年6月から平成31(2019)年2月までに各地域で地域懇談会(延32回、622人参加)を開催した。
	《民生費○社会福祉協議会事業》 [地域支援課]			
5	いきいきサロン事業	予算 決算	8,741 4,453	高齢者の社会的孤立感の解消と健康寿命の延伸を図り、住み慣れた地域で在宅生活を送れるようにすることを目的とし、地域住民団体やNPO法人等が運営しており、市はその運営団体に支援を行った。 ・実施回数 910回 ・市内利用者数 11,580人 ・多世代交流プログラム 実施回数26回／対象者数264人 ・共生社会プログラム 実施回数57回／対象者数105人 ・利用登録者数 443人(平成31(2019)年3月31日時点) ・安否確認人数 337人 ※平成30(2018)年度末は20団体が運営。
	《民生費○社会参加促進事業》 [高齢者支援課]			
6	レモンキャブ事業	予算 決算	24,751 24,151	公共交通機関をひとりで利用することが困難な高齢者や障害者(要介護者や障害者手帳取得者など)の外出を支援するため、移送サービス(レモンキャブ)事業を実施しており、商店主を中心とした地域のボランティアが福祉型軽自動車(全9台)を運転し、ドア・ツー・ドアのサービスを提供した。 ・運行範囲 市内及び近接市区(三鷹市・小金井市・西東京市・杉並区・練馬区) ・利用料金 年会費1,000円 運行費800円/30分 ・運行回数 18,941回 ・運行日数 292日 ・登録会員数 904人 ・運行協力員数 43人
	《民生費○移送サービス事業》 [高齢者支援課]			

7	テンミリオンハウス事業	予算 決算	109,901 94,397	市内で8か所のテンミリオンハウスを開所し、デイサービスや緊急ショートステイなど、地域のニーズに応じた特色ある共助の事業を展開した。テンミリオンハウスに通うことで、介護予防、健康増進、趣味活動や仲間づくりの促進など、高齢者や乳幼児親子の地域とのつながりが深まり、生活の向上につながった。 ①川路さんち 開所日数 232日 延利用人数 2,950人 ②月見路 開所日数 280日 延利用人数 5,082人 ③関三倶楽部 開所日数 323日 延利用人数 1,037人 (デイ) 620人 (ショート) 417人 ④そ〜らの家 開所日数 300日 延利用人数 8,429人 ⑤きんもくせい 開所日数 291日 延利用人数 7,644人 ⑥花時計 開所日数 249日 延利用人数 7,474人 (高齢者) 4,990人 (乳幼児) 2,239人 (児童) 245人 ⑦くるみの木 開所日数 282日 延利用人数 6,839人 ⑧ふらっと・きたまち 開所日数 246日 延利用人数 2,908人
	《民生費○テンミリオンハウス事業》 [高齢者支援課]			

(2) 誰もが地域で安心して暮らしつづけられる仕組みづくりの推進

8	在宅医療・介護連携推進事業	予算 決算	8,311 6,438	在宅医療と介護の連携を推進することを目的に、連携における課題の抽出と対応策の検討を行う「在宅医療・介護連携推進協議会」を3回開催した。 医療と介護関係者の多職種連携を推進するため、合同研修会を実施した。(医療・介護関係者：78人参加) 医療と介護の連携における相談に対応するため、武蔵野市医師会に委託した「在宅医療介護連携支援室」において、関係者からの相談に対応した。(平成30(2018)年度実績) 相談：201件、訪問：134件 在宅療養に関する市民への普及啓発のため、市民向け講演会「住み慣れた地域で、最期まで自分らしく暮らし続けるために」～いのちの終わりについて話し合うアドバンス・ケア・プランニング(ACP)～を開催した。(参加者：178人)
	《民生費○在宅医療・介護連携推進事業》 [地域支援課]			
9	地域自立支援協議会の運営	予算 決算	1,410 959	地域における障害者及び障害児への支援体制に関する課題等について協議する地域自立支援協議会を7回実施した(親会5回、全体会2回)。また、各専門部会(くらす、はたらく、権利擁護、相談支援、障害当事者の5部会)の会議を開催した。
	《民生費○障害者自立支援給付等事業》 [障害者福祉課]			
10	精神障害者グループホームの開設	予算 決算	0 0	精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向け、平成30(2018)年5月に市内2か所目となる精神障害者グループホームが西久保に開設された。 (開設費用は平成29(2017)年度に支出済みであるため、平成30(2018)年度は予算決算ともに0円) ・場所 武蔵野市西久保 ・建物 木造2階建 ・定員 7人(利用者 7人) ・運営 NPO法人ミュー
	《民生費○障害者自立支援給付等事業》 [障害者福祉課]			
11	発達障害者への支援の充実	予算 決算	27,000 27,000	近年相談件数が急増している、おとなの発達障害者に対応するため、これまで実施していた日中一時支援事業と相談支援事業を再編し、地域活動支援センターコートを開設した。支援内容の拡充、地域のネットワークの構築、相談支援体制の一層の強化を図った。(年間開所日数245日、一日当たり平均来所者数20人、延来所者数4,910人)
	《民生費○地域生活支援事業》 [障害者福祉課]			
12	障害者の権利を守る取り組み	予算 決算	881 669	障害者が親なき後も安心した生活を送るため、保護者などに対し、成年後見制度への理解促進を図る取り組みを行った。また、支援する側とされる側のバリアの垣根を減らすことを目的に、「心のバリアフリー啓発事業」を社会福祉法人武蔵野市民社会福祉協議会に委託し実施した。(7団体、1,106人)
	《民生費○一般管理経費、○地域生活支援事業》 [障害者福祉課]			

13	引きこもりサポート事業の充実 《民生費○精神障害者援護事業》 [障害者福祉課]	予算 決算	5,972 5,972	引きこもり当事者とその家族等の相談支援や居場所の設置、受け皿となる地域への啓発活動などを実施した。(家族セミナー5回、フォーラム2回開催)居場所機能を付与した常設の窓口を市内に設置したことで、市民の利用者が増加した。
14	高齢者等緊急訪問介護事業 (レスキューヘルパー) 《民生費○高齢者日常生活支援事業》 [高齢者支援課]	予算 決算	840 74	ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯の方が急病などで一時的に支援が必要な場合にヘルパーを派遣し、入浴介助等の身体介護や生活援助(掃除、洗濯、買い物)のサービスを提供した。 ・延利用者6人、延21時間
15	摂食嚥下(えんげ)支援事業 《民生費○高齢者日常生活支援事業》 [高齢者支援課]	予算 決算	1,188 1,188	高齢者がいつまでも安全に食べられることを支援するため、施設利用者等に対して摂食嚥下機能の評価と、歯科医師や介護職等多職種によるカンファレンスを実施し、高齢者の摂食嚥下機能支援の体制を強化した。 平成30(2018)年度は摂食嚥下支援を施設から在宅療養者へ広げるため、デイサービス利用者をモデルとして本事業の検証を実施した。
16	認知症高齢者支援事業 《民生費○認知症高齢者支援事業》 [高齢者支援課]	予算 決算	20,551 14,024	認知症に対する正しい知識と具体的な対応方法について広く普及するため、啓発活動や相談事業を実施した。また、認知症高齢者及び家族を支援するため、ヘルパーを派遣し、本人のQOLの向上や家族のレスパイトを行った(認知症高齢者見守り支援事業)。相談事業の充実、普及啓発の推進、在宅生活支援の3つの柱に基づく事業により、その人らしく地域で生活を継続することに寄与している(介護保険事業会計分の予算額1,370千円及び決算額165千円を含む)。 ・認知症サポーター養成講座 58回、延1,810人 ・認知症相談事業 延72人 ・認知症を知る月間及び休日相談会 延36人 ・認知症見守り支援事業 決定者 36人、登録者64人、延3,680.5時間 ・認知症初期集中支援事業 2件
17	生活困窮者自立支援事業 《民生費○生活困窮者自立支援事業》 [生活福祉課]	予算 決算	36,107 36,315	生活保護に至っていない生活困窮者が早期に生活困窮状態より脱却できるよう、さまざまな社会資源を活用し、本人の状態に応じた包括的かつ継続的な支援を実施した。 ・生活困窮相談件数 377件 ・自立相談支援事業新規相談件数 114件 ・住居確保給付金新規支給決定件数 24件 延利用月数 120月 ・就労準備支援事業実利用者 9人 ・学習支援事業実利用者 35人 延利用回数 612回 ・家計改善支援事業実利用者 7人 延支援者数 51人
18	被保護世帯援護事業 《民生費○生活保護法による扶助事業》 [生活福祉課]	予算 決算	3,778,718 3,487,788	生活保護法に基づき、生活扶助、住宅扶助、医療扶助などの各種扶助を行った。 ・延世帯数 19,582世帯 ・延人員数 22,202人

(3) 誰もがいつまでも健康な生活を送るための健康づくりの推進

19	自殺防止に向けた計画策定 《衛生費○一般管理経費》 [健康課]	予算 決算	3,510 3,123	平成28(2016)年の自殺対策基本法の改正に伴い、都道府県及び市区町村に「地域自殺対策計画」の策定が義務付けられたことを機に、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指すため、「武蔵野市自殺総合対策計画 ～こころ・いのち 支え合うまち むさしの～」を策定した。
----	---	----------	----------------	--

20	妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援の推進 《衛生費○一般管理経費、○母子保健事業》 [健康課]	予算 決算	219,308 196,120	子ども一人ひとりが健やかに成長することを目的に、保健師などの専門職が、妊産婦とその家族に寄り添い支援を行った。平成30（2018）年度は、7月8日に「ゆりかごむさしのフェスティバル」を開催し364人が来場した。また産後早期の支援として新たに産後電話や産後支援訪問事業を開始するなど、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援をさらに拡充した。
21	予防接種事業 《衛生費○予防接種事業》 [健康課]	予算 決算	446,095 425,943	B型肝炎、ヒブ、小児用肺炎球菌、四種混合、麻しん・風しん、水痘、日本脳炎、高齢者肺炎球菌、高齢者インフルエンザなどの定期接種を実施し、感染症の発生及びまん延を防止するよう積極的勧奨した。新たにおたふくかぜ予防接種の費用助成を実施し、高齢者インフルエンザ予防接種を近隣4自治体に加え、西東京市の医療機関でも受けられる体制とした。また、都の制度変更に合わせて、大人の風しん抗体検査・予防接種の対象者を拡大した。
22	がん検診等事業 《衛生費○老・成人保健事業》 [健康課]	予算 決算	158,931 150,541	受診率向上に向け、平成27（2015）年度から開始した土曜日のがん検診を、平成30（2018）年度は7日間実施した。また、市民の利便性向上のため、胃がん・肺がんセット検診を開始。合わせて、個別受診勧奨はがき送付の対象を拡大し周知したことで、受診者数が増加した。胃がん検診は前年度比1.7倍、肺がん検診は2.5倍、乳がん検診は1.7倍となった。

(4) 誰もが地域でいきいきと輝けるステージづくり

23	地域包括ケア人材育成センター 《民生費○福祉人材確保育成事業》 [地域支援課]	予算 決算	11,810 17,275	福祉サービスの拡充や地域福祉活動の推進に向け、専門職や地域の担い手も含めた福祉人材の育成と確保を目的に、「地域包括ケア人材育成センター」を平成30（2018）年12月1日に開設した。運営は公益財団法人武蔵野市福祉公社に委託。「活かす」「育てる」「つなぐ」「支える」の4つの機能をもたせ、人材の発掘・養成、質の向上、相談受付や情報提供までを一体的に行う、総合的な支援を開始した。
----	---	----------	------------------	--

(5) 住み慣れた地域での生活を継続するための基盤整備

24	障害者支援施設の開設支援 《民生費○社会福祉法人武蔵野関係事業》 [障害者福祉課]	予算 決算	35,500 35,500	市内初となる障害者支援（入所）施設「障害者地域生活支援ステーション わくらす武蔵野」が、平成31（2019）年3月に開設した。入所支援（定員40人）のほか、生活介護（定員50人）、短期入所（定員4人）、相談・居宅支援などを併設し、地域生活支援拠点として位置づけられた複合施設として、社会福祉法人武蔵野が運営を担っている。 ・1月 通所サービス利用者募集開始、入所者説明会 ・2月 開所式（参加者163人）、内覧会（参加者703人） ・3月 開設、生活介護（通所）事業開始
25	看護小規模多機能施設の開設支援事業 《民生費○介護保険施設等整備事業》 [高齢者支援課]	予算 決算	38,933 47,650	今後さらに高まる医療ニーズに対応していくため、在宅の中・重度の要介護者を支える方策として医療機能を併設した小規模多機能型居宅介護事業所の開設に向け、開設準備経費など、施設整備補助による支援を行った。平成30（2018）年12月、関前2丁目に市内初となるナースケアたんぼの家が開設した。
26	介護保険利用者負担額助成事業（5%助成） 《民生費○介護保険事業》 [高齢者支援課]	予算 決算	27,201 28,575	介護保険を利用する低所得者に対し、訪問介護サービス利用料10%のうち5%分の助成を行った。このことにより、低所得者の経済的な負担軽減がなされ、安心した在宅サービスの継続が図られた。（予算額・決算額は扶助費のみ） ・介護保険利用者負担額助成事業 実支給人数878人、支給件数7,963件

27	訪問看護と介護の連携強化事業	予算 決算	13,323 13,391	介護保険制度改正の動向も見据え、施行3年を機に平成30（2018）年度より事業のあり方を見直した。訪問看護事業者が要介護認定者などに係る医療情報を居宅介護支援事業者などに提供した場合に、従来一律に被保険者1人1月につき1,500円の連携費を支給していたが、連携費単価を1,000円と2,000円の2種類とし、連携費にインセンティブを付することにより、深夜等時間帯に医療ニーズが必要となる要介護者等の受入れ促進を図り、もって医療ニーズの高い単身高齢者等の在宅生活継続支援を図った。（予算額・決算額は補助金のみ） ・訪問看護と介護の連携強化事業 協定事業所数29事業所（平成30（2018）年度末現在）、対象延利用者数8,741人（1,500円×1,501人、2,000円×3,899人、1,000円×3,341人）
	《民生費○介護保険事業》 [高齢者支援課]			

Ⅱ子ども・教育

(1) 子ども自身の育ちと子育て家庭への総合的支援

1	保育の質向上の取組み	予算 決算	12,476 7,572	保育従事者を対象とした研修を継続したほか、重大事故防止のための巡回支援指導員の配置等による指導検査体制の充実、保育総合アドバイザーや保育相談員の充実等により、保育の質の更なる向上を図った。
	《民生費○一般管理経費》 [子ども育成課]			
2	子ども家庭支援センター事業	予算 決算	48,273 44,592	子どもとその家庭に対する相談事業や子育てショートステイ等を実施し、子育て支援ネットワークの中核機関として関係機関の連携を進め、子育てに不安を持つ家庭を適切に支援した。 ・相談事業延活動件数 21,908件
	《民生費○子ども家庭支援センター事業》 [子ども家庭支援センター]			
3	認可外保育施設入所児童保育助成事業	予算 決算	172,824 125,103	認可外保育施設に入所する児童に対して、階層別に上限を設けたうえで認可保育所の保育料との差額を助成し、子育て世帯の負担の軽減を図った。
	《民生費○認可外保育施設助成事業》 [子ども育成課]			
4	認証保育所2園の新規開設	予算 決算	60,000 52,964	待機児童解消に向け、更なる保育施設定員枠を拡充等するために、13時間開所や0～2歳児の定員枠が多いという特徴を持つ認証保育所の整備に対して支援を行った。なお、平成30（2018）年度は年度途中の開設やグループ保育室から認証保育所への移行など様々な対策を行った。 【平成30（2018）年度予算執行分】 ・中町第2すみれ保育園 平成30（2018）年10月開設 ・キッズいながき保育園吉祥寺 平成31（2019）年4月開設 【グループ保育室の認証保育所への移行】 ・八丁はなみずき保育園（平成30（2018）年4月開設⇒平成30（2018）年11月認証保育所に移行）
	《民生費○認可外保育施設助成事業》 [子ども育成課]			
5	病児・病後児保育施設の新規開設	予算 決算	17,100 17,100	吉祥寺地域の病児・病後児保育施設の整備に対して支援を行ったことで、3駅圏全てで病児又は病後児に対応する保育施設が整備された。 ・病児・病後児保育室いながき 平成31（2019）年4月開設
	《民生費○認可外保育施設助成事業》 [子ども育成課]			
6	企業主導型保育事業に対する支援	予算 決算	21,705 12,189	市民の受入れを行う企業主導型保育事業者に対し、保育人材確保に向けた取組みとして、都の制度である保育士等キャリアアップ補助金、保育士等宿舍借上げ支援事業補助金、保育補助者雇上強化事業補助金を活用して支援を行った。
	《民生費○認可外保育施設助成事業》 [子ども育成課]			

7	乳幼児及び義務教育就学児医療費助成事業 《民生費○乳幼児及び義務教育就学児医療費助成事業》 [子ども家庭支援センター]	予算 決算	612,764 613,353	乳幼児及び義務教育就学児の医療保険診療自己負担分を助成した。 ・医療費助成額 589,159,875円 （乳 271,027,432円、子 318,132,443円） ・対象児童数 乳幼児 8,323人、 義務教育就学児 9,695人 ・助成件数 乳幼児 170,608件、 義務教育就学児 147,411件
8	0123施設の管理運営 《民生費○0123施設の管理運営》 [子ども政策課]	予算 決算	101,796 98,746	0～3歳までの乳幼児の豊かな育ちとその親の子育てを支援するため、（公財）武蔵野市子ども協会に管理運営を委託した。 ・延利用者（子ども）数： 吉祥寺 17,199人、はらっぱ 25,840人
9	すくすく施設事業 《民生費○すくすく施設事業》 [子ども政策課]	予算 決算	11,252 11,072	子育てひろば・小規模保育事業・一時預かりの3つの機能を持つ子育て支援施設「すくすく泉」の管理運営を委託し、NPO法人いずみの会に対して、運営費を補助した。
10	認可保育所3園の新規開設 《民生費○保育所等運営委託・給付事業》 [子ども育成課]	予算 決算	665,032 851,053	平成31（2019）年4月に開設した認可保育所3園の整備に対して支援を行い、中央地域2園（認証保育所の認可化移行1園を含む）、武蔵境地域1園をそれぞれ設置し、合計258人分の定員を拡充した。 なお、整備費の補助基準額の増加や補助率引上げ要件を満たしたことに伴う補助率の増加（7/8⇒15/16）などにより執行額は増額した。 ・武蔵野もみじの森保育園 平成31（2019）年4月開設 ・このえ武蔵境保育園 平成31（2019）年4月開設 ・中町すみれ保育園 平成27（2015）年4月認証保育所として開設⇒平成31（2019）年4月認可保育所に移行
11	児童手当支給事業 《民生費○児童手当支給事業》 [子ども家庭支援センター]	予算 決算	1,811,908 1,794,738	中学校修了前の児童の保護者に児童手当を支給した。平成24（2012）年6月から児童手当所得制限実施により所得制限限度額以上の者に特例給付を支給した。 ・児童手当支給額 1,407,200,000円 受給者数 6,957人 対象児童数 10,232人 ・特例給付支給額 384,705,000円 受給者数 4,140人 対象児童数 6,517人
12	児童扶養手当支給事業 《民生費○児童扶養手当等支給事業》 [子ども家庭支援センター]	予算 決算	383,427 366,350	ひとり親家庭等や障害のある児童の保護者に対する児童扶養手当・児童育成手当を支給した（所得制限あり）。 ・児童扶養手当支給額 200,620,150円 受給者数 434人 ・児童育成手当支給額 158,705,000円 児童数（育成手当872人、障害手当69人）
13	ひとり親家庭訪問型学習・生活支援事業 《民生費○ひとり親家庭対策事業》 [子ども家庭支援センター]	予算 決算	4,738 4,735	学習支援員が自宅を訪問し、子どもに対して学習・生活支援を行うことで学習習慣の定着と基礎学力の向上を図るとともに、保護者の相談に応じることでひとり親家庭の生活安定化を促進した。 ・利用世帯 10世帯
14	ひとり親家庭等医療費助成事業 《民生費○ひとり親家庭等医療費助成事業》 [子ども家庭支援センター]	予算 決算	24,427 23,763	ひとり親家庭等に対し、医療保険診療自己負担分（課税世帯は一部）を助成した（所得制限あり）。 ・医療費助成額 23,038,156円 ・受給世帯数 478世帯 受給対象者数 694人 助成件数 9,650件

15	ひとり親家庭ホームヘルプサービス事業 《民生費○ひとり親家庭ホームヘルプサービス事業》 [子ども家庭支援センター]	予算 決算	7,396 5,450	就学、就労、疾病又は生活環境の変化等により、一時的に家事、育児等の日常生活の援助を必要とするひとり親家庭にホームヘルパーを派遣し、生活の安定を図った。 ・実世帯数 28世帯 ・派遣日数 1,032日
16	保育士等人材の確保及び定着に向けた取組みへの支援 《民生費○認可外保育施設助成事業、○保育所等運営委託・給付事業》 [子ども育成課]	予算 決算	403,872 386,819	保育人材の確保、定着及び離職防止を図るため、保育士等の処遇改善に向けた取組み、職員用の宿舍の借上げ、保育補助者の雇上げを行っている事業者に対して国や都の制度を活用して支援した。

(2) 地域社会全体の連携による子ども・子育て支援の充実

17	子育て支援事業 《民生費○子育て支援事業》 [子ども政策課]	予算 決算	31,112 25,780	多様な主体によるひろば事業の展開を目指した「共助による子育てひろば事業」、子育てひろばの運営に関わる関係機関による「子育てひろばネットワーク会議」、当事者ボランティアの育成や支援者のつながりを目的としたボランティア養成講座や交流会を実施した。来所型施設では対応できない子育て家庭への支援として、ファミリー・サポート・センター事業を実施し、地域での相互援助活動を促進した。子育てを応援する機運醸成等を目的として「まちぐるみ子育て応援事業」や、吉祥寺駅周辺の「ベビーカー貸出しサービス事業」を実施し、地域で子育てを支援する仕組みが充実した。また、子育て応援サイト「むさしのすくすくナビ」による情報発信が充実した。 ・共助による子育てひろば事業実施コミセン数 7か所 ・子育てひろばネットワーク会議 延参加者数 73人 ・子育てひろばボランティア養成講座 実参加者数 49人 ・ファミリー・サポート・センター事業 延活動件数 2,517件 ・まちぐるみ子育て応援事業 2,000千円 ・ベビーカー貸出しサービス事業 実施か所数 5か所 ・むさしのすくすくナビ 登録者数 3,323人（平成30（2018）年度末時点）
----	--	----------	------------------	--

(3) 青少年の成長・自立への支援

18	市立自然の村の管理運営 《総務費○市立自然の村の管理運営》 [児童青少年課]	予算 決算	63,937 52,196	青少年をはじめとする多くの市民が利用しやすい施設とするため、施設の管理運営、利用促進バスの運営、天体観望会などを指定管理者への委託により実施し、豊かな自然に親しみ生活することで青少年の健全育成につながった。また、水道施設増設、中央棟外壁一部張替、天体施設外壁塗装塗替などの工事を行い、施設の整備と利用者の安全確保を図った。 ・宿泊利用者数4,969人 ・利用促進バス11回運行、利用者数166人
19	むさしのジャンボリー事業 《総務費○むさしのジャンボリー事業》 [児童青少年課]	予算 決算	18,929 16,850	青少年問題協議会地区委員会との共催事業として、市立自然の村において小学校4～6年生を対象とした2泊3日のキャンプを10回実施した（12回を予定していたが、台風の接近により2回が中止となった。）。中高生のサブリーダーや地域の指導者とともに、参加した小学生の自立心や創造性、自然への興味と理解などが育まれた。 ・参加者数1,137人 （小学生721人、指導者254人、サブリーダー162人）
20	青少年問題協議会の運営と地区委員会活動の推進 《総務費○青少年問題協議会・地区活動事業》 [児童青少年課]	予算 決算	11,173 10,773	青少年に対する市の総合的施策の実施を推進し、青少年の健全育成を図るため、青少年問題協議会定例会の開催及び地区委員会活動に対する補助を行った。定例会では青少年健全育成に関わる機関が情報共有や意見交換を行い、各地区委員会ではむさしのジャンボリー、美化運動などのほか地域の特徴を生かした活動を通じて青少年健全育成の促進を図った。 ・市内12地区委員会1,459人

21	青少年活動育成事業	予算 決算	36,331 31,719	青少年団体の地域参加や家族の自然体験を行い、青少年の健全育成や地域活動の活性化、家族の絆を深めた。また、日常生活・学校生活、進路などに悩みを持つ青少年を対象とした相談事業及び居場所事業を行い、社会参加、自立に向けた支援を行った。 ・中高生リーダー講習会：受講者数（新規登録者数）134人 ・善行表彰： - 子鳩・けやき表彰1人、3グループ。奨励団体2団体 ・青少年関係団体バス借上げ：28団体、講師謝礼補助2団体 ・プレーパーク事業：延305日開催、延来場者数19,782人 ・二俣尾自然体験：参加者数13家族33人 ・鳥取県家族ふれあい自然体験：参加者数28家族79人 ・親子棚田体験（新潟県長岡市）： - 参加者数 春（田植え）10家族29人／秋（稲刈り）14家族32人 ・子ども自然体験指導者講習会：受講者数12人 ・若者サポート事業： - 相談窓口と居場所スペースを統合した常設の施設を市内に設置し、居場所事業の開催日及び時間を拡大した。 - 居場所所定期間所数246回、延来所者数1,409人 ・プレーパーク子ども・若者支援事業： - 居場所事業33回、延参加者数207人 《総務費○青少年活動育成事業》 [児童青少年課]
22	ハバロフスク市青少年交流事業	予算 決算	2,568 2,492	武蔵野市・ハバロフスク市青少年相互交流協定書に基づき、自然交流使節団として、本市の中学生・高校生19人、引率者4人を7泊8日の日程でハバロフスク市に派遣した。ハバロフスク市の青少年とのキャンプでの共同生活やホームステイ等を通じて、友好を深めるとともに、国際理解、国際的視野を広げることができた。 《総務費○ハバロフスク市青少年交流事業》 [児童青少年課]
23	子どもを守る家関連推進事業	予算 決算	1,559 1,215	子どもを守る家及び自転車防犯帯の協力員拡大の取組みと情報提供を実施し、地域防犯力と犯罪抑止効果を高めた。また、子ども自らが犯罪や嫌がらせなどから身を守る能力を高めるCAPプログラム（子どもへの暴力防止プログラム）を実施し、保護者を含めた安全意識の醸成を図った。 ・子どもを守る家1,893件、自転車防犯帯3,668件 《総務費○子どもを守る家関連推進事業》 [児童青少年課]
24	あそべえ事業	予算 決算	222,439 204,066	小学生が安全かつ健全に放課後などを過ごし、仲間づくりや異年齢交流を行うことができるように、学校施設を利用した地域の居場所・遊びを提供した。 ・延参加児童数 479,790人 《民生費○あそべえ事業》 [児童青少年課]
25	学童クラブ事業	予算 決算	479,100 439,329	放課後に保護者の監護に欠ける市内在住の小学校低学年児童の健全育成を行った。障害児枠入会児童について対象を5年生まで拡大した。入会児童数の増加に対応するため、第五小学校、本宿小でクラブ室の整備を行い、定員を75人増やした。児童数の増に伴い、支援員を増員し適正に配置した。地域子ども館の適切な運営及び質の向上を図るためアドバイザーを配置し、各館を定期的に巡回し相談業務を行った。 ・15クラブ 定員1,247人 在籍数（年間平均）1,113人 ※民間学童クラブ含む 《民生費○学童クラブ事業》 [児童青少年課]
26	児童館運営事業	予算 決算	27,396 24,556	子どもたちの健全育成を目的として、乳幼児と保護者、小・中学生を対象に、健全な遊びと安全な居場所の提供及び子育て支援を実施した。子育て家庭支援として利用者からの要望に応え、乳幼児対象事業「ゆう・遊・グーの日」「トランポリンの日」「おはなしひろば」の開催日を増やした。また子育て支援拠点施設として境南、桜堤コミセンで親子ひろばを実施し、相談業務や遊びの指導を行った。市内小学生の放課後対策として、あそべえとの連携を図り、イベントを共催で実施した。 ・事業回数328回、参加者延10,524人 ・一般来館者延29,788人、総計延40,312人 《民生費○児童館の管理運営》 [児童青少年課]

(4) 子ども・子育て家庭を支援する体制・施設の整備

27	第五次子どもプラン武蔵野の策定 《総務費○児童対策事業》 [子ども政策課]	予算 決算	10,493 6,765	すべての子どもたちが健やかに育ち、すべての子育て家庭が安心して子育てできるように、子ども・子育てに関する基本計画である「第五次子どもプラン武蔵野」の策定作業を進めた。プラン策定の基礎資料となる「武蔵野市子ども・子育て支援に関するアンケート調査」を実施し、報告書を作成した。
28	一時預かり事業（幼稚園型）の充実 《総務費○私立幼稚園等助成事業》 [子ども育成課]	予算 決算	46,034 64,220	私立幼稚園における預かり保育を新制度に基づく「幼稚園型一時預かり事業」に移行を促すとともに、長時間保育を必要とする家庭も幼稚園を利用しやすくするため、概ね年間250日開園するなど充実した事業を行っている幼稚園に対しても補助を行った。
29	私立幼稚園児等園児保護者に対する補助 《総務費○私立幼稚園等助成事業》 [子ども育成課]	予算 決算	341,553 337,989	幼児教育を希望する保護者の負担を軽減するため、平成30（2018）年度から幼稚園の入園料補助金を50,000円に増額し、教育・保育施設利用の選択の幅を広げた。また、国や都制度に基づいた保護者補助を実施した。
30	私立幼稚園に対する補助及び給付事業 《総務費○私立幼稚園等助成事業》 [子ども育成課]	予算 決算	88,686 83,727	幼児教育の振興を図るため、市内幼稚園に対して引き続き支援を行った。新制度に移行した園に対して、国の公定価格に基づいて給付を行った。

(5) 次代を担う力をはぐくむ学校教育

31	学校施設整備基本計画（仮称）の策定 《教育費○一般管理経費、総務費○第六期長期計画策定》 [教育企画課]	予算 決算	23,854 25,341	学校施設整備に必要な測量データ等基礎情報を整理した。また、小中一貫教育検討委員会の答申を受け、小中一貫教育あり方懇談会を設置し、検討に必要な資料を作成した上で、実施の是非について全市的な議論を進めた。懇談会からは、すべての小学校区単位での施設一体型小中一貫教育は実施するべきではないこと、また、小中連携教育を含む教育課程の充実や、更なる学校における福祉機能の強化等により、これまで教育委員会が示してきた「これからの武蔵野市の学校教育に求められる目的、目標を追求するべき」と判断した、という報告を受けた。
32	第三期学校教育計画の策定 《教育費○一般管理経費》 [教育企画課]	予算 決算	4,174 2,529	本市の教育の現状と課題を整理し、目指す方向を明らかにするため、令和2（2020）年度からの5か年を計画期間とする第三期学校教育計画の策定のため、策定委員会を5回開催した。「子ども生活実態調査」や「教職員アンケート」を実施し報告書をまとめた。
33	学区編成審議会の設置 《教育費○一般管理経費》 [教育支援課]	予算 決算	3,675 388	市立小・中学校の児童生徒数が増加傾向にあることから、適切な学習指導環境を確保するため、学区編成審議会を設置し、学区見直しの検討を実施した。保護者や地域関係団体への説明・意見募集等を経て、桜野小学校・第二小学校・第二中学校・第六中学校の学区を一部変更することを決定した。
34	小・中学校教職員用タイムレコーダーの導入 《教育費○教職員労働安全衛生管理》 [指導課]	予算 決算	21,796 19,917	教職員の勤務時間を適正に把握するため、教職員1人に1枚ICカードを貸与するとともに、ICカードを利用したタイムレコーダーを小・中学校全校に設置した。あわせて、出退勤時刻や在校時間の管理・集計、出勤簿の作成及び休暇・出張等の申請を行うことができる出退勤管理システムを導入した。
35	高等学校等修学支援事業 《教育費○高等学校等修学支援事業》 [教育支援課]	予算 決算	18,760 19,710	高等学校等に在学する生徒の保護者のうち一定所得以下の世帯を対象に、入学前に高等学校等入学準備金を支給するとともに、都の奨学給付金制度の対象外の世帯に高等学校等修学給付金の支給を実施し、経済的な負担軽減を図った。 高等学校等入学準備金 111人支給 高等学校等修学給付金 261人支給

36	オリンピック・パラリンピック教育の推進 《教育費○教職員研修・研究》 [指導課]	予算 決算	4,500 361	市立小・中学校全校において、各教科等の学習内容や学習活動と関連したオリンピック・パラリンピック教育を実施した。
37	小中連携協力研究協力校の指定 《教育費○教職員研修・研究》 [指導課]	予算 決算	2,200 821	小中連携教育研究協力校を11校指定し、6つのテーマについて実践研究を行った。
38	市民性を高める教育 《教育費○副読本・教師用教科書等 給与》 [指導課]	予算 決算	480 420	子どもたちがより良い地域づくりに積極的に参加できる資質や態度を育成するため、副読本「武蔵野市のいま・むかし」を、全ての市立小学校1年生に給与した。
39	教育相談事業 《教育費○教育相談事業》 [教育支援課]	予算 決算	94,217 88,962	教育支援センター、適応指導教室、帰国・外国人教育相談室における教育相談、学校派遣相談、適応指導、家庭訪問などを通じて、子どもの健全な成長を支援した。また、スクールソーシャルワーカーが学校・家庭と関係機関のつなぎ役となり、早期対応を図った。
40	不登校対策の総合的検討 《教育費○教育相談事業》 [教育支援課]	予算 決算	4,286 1,944	不登校傾向にある児童・生徒の登校支援や登校後の個別支援を行う「学校と家庭の連携推進事業」の実施校を4校から10校に拡充し、不登校に早期に対応する体制づくりを進めた。また、不登校対策検討委員会を設置し、本市における不登校の総合的な対策を報告書にまとめた。
41	体力向上・健康づくりの取組の充実 《教育費○児童生徒指導》 [指導課]	予算 決算	1,686 1,671	児童の体力づくりや運動習慣の定着を図るとともに、学級担任への授業支援を行うため、体育を専門とする学習指導員を2人、体育指導補助員を2人配置した。 ・学習指導員：市立小学校6校（第二小学校・第三小学校・大野田小学校・境南小学校・千川小学校・桜野小学校） 合計572時間（1校年間96時間を目安） ・指導補助員：市立小学校2校（第四小学校・第五小学校） 合計180時間（1校年間90時間を目安）
42	少人数指導及び学習支援教室等の推進 《教育費○児童生徒指導》 [指導課]	予算 決算	34,459 29,991	確かな学力の定着・向上のため、学級内及び学級の枠を越えた弾力的グループ編成による少人数指導などの対応を行い、個に応じた指導の充実を図った。また、放課後等に学習支援教室を実施した。きめ細かな指導により、一人ひとりの学力を高めることができた。
43	小学校外国語教育の充実 《教育費○児童生徒指導》 [指導課]	予算 決算	28,780 21,232	小学校外国語活動の円滑な実施のため、小学校外国語活動指導助手（ALT）を6人配置し、学級担任とのチーム・ティーチングで指導を行った。外国語に対する興味や関心が高まり、積極的にコミュニケーションをとる児童が増えた。 ・市立小学校全12校 3～6年生 合計3,164時間（3・4年生は1学級年間15時間、5・6年生は1学級年間35時間を目安。教材準備等を含む。）
44	小学校高学年における理科指導員の配置 《教育費○児童生徒指導》 [指導課]	予算 決算	11,976 11,457	理科の専門性の高い指導員を配置し、学級担任とのチーム・ティーチングで質の高い授業を行った。観察、実験を通して児童の理科への関心を高めることができた。 ・市立小学校全12校 5・6年生 合計3,802時間（1学級年間70時間を目安）
45	学校事務支援の充実 《教育費○児童生徒指導》 [指導課]	予算 決算	8,474 9,153	副校長の事務負担を軽減し、児童・生徒に対応する時間を確保するため、副校長の事務処理を補佐する非常勤職員を各小中学校に1人配置した。延8,723時間勤務し、副校長の事務をサポートした。
46	特別支援教育の推進 《教育費○児童生徒指導》 [指導課]	予算 決算	2,347 3,470	通常の学級に在籍する発達障害などのある児童を対象に、サポートスタッフ登録者36人を2,812時間派遣し、支援体制の充実を図った。
47	中学校の部活動のあり方検討 《教育費○児童生徒指導》 [指導課]	予算 決算	144 0	効率的及び効果的な部活動の推進、教員の多忙化の解消、部活動の継続性等を図ることを目的に中学校関係者などを委員とした「武蔵野市立中学校部活動在り方検討委員会」を設置し、5回の会議を経て「武蔵野市立学校に係る部活動の方針」を策定した。

48	特設教科「武蔵野市民科」の カリキュラム作成 《教育費○一般教育指導》 [指導課]	予算 決算	394 407	武蔵野市に根差した高い市民性を児童・生徒に育成するために、学識経験者、学校・地域関係者を委員とした「武蔵野市民科カリキュラム作成委員会」を設置し、5回の会議を経て武蔵野市民科実施のための教員向け手引を作成した。
49	I C Tを活用した教育の推進 《教育費○情報教育指導》 [指導課]	予算 決算	159,489 158,291	タブレット、電子黒板等のI C T機器を積極的に活用した教育を推進するため、学校I C Tサポーターを3人配置した。学校I C Tサポーターによる学校巡回、I C T教育・プログラミング教育推進委員会（3回）及びI C T活用研修（2回）をとおして教員への授業支援を進めた。
50	セカンドスクール・プレセカ ンドスクール 《教育費○セカンドスクール》 [指導課]	予算 決算	146,516 135,163	市立小学校5年生、中学校1年生において、農山漁村などに長期に滞在して体験学習を行うセカンドスクールを実施した。また、小学校4年生において、プレセカンドスクールを実施した。子どもたちの豊かな情操や感性、生きる力、課題解決への意欲や態度を養うことができた。
51	吹奏楽クラブ楽器購入・修繕 《教育費○特色ある教育活動の奨励 事業》 [指導課]	予算 決算	8,078 7,849	子どもたちの文化芸術活動への取組を奨励する一環として、音楽に触れる機会を多くもてるよう、市立小・中学校の吹奏楽クラブや吹奏楽部などがある学校15校に対し、活動に必要な楽器の購入・修理を行った。活発な音楽活動を支援し、音楽への興味関心を高め、活動の幅を広げることができた。
52	教育推進室の運営 《教育費○教育推進室の運営》 [指導課]	予算 決算	24,130 23,180	本市の教育活動の充実と共有化を図るため教育推進室を運営した。若手教員育成研修の実施支援、地域コーディネーターの資質・能力の向上を図るための研修1回と連絡会3回を実施した。また、年4回教育推進室だよりを発行しさまざまな教育情報を発信するほか、研究指定校の研究紀要を市H Pで紹介するなどの取組みを行った。
53	大野田小学校児童増加対策 《教育費○校舎等施設維持管理》 [教育企画課]	予算 決算	102,620 17,602	4階被服室の第二図工室への改修及び1階昇降口の拡張工事等を行った。
54	市立小学校児童増加対策工事 《教育費○校舎等施設維持管理》 [教育企画課]	予算 決算	17,486 17,693	関前南小学校パソコンルームの普通教室化及び桜野小学校3階ホールの教材室への改修工事を行った。
55	非構造部材（特定天井）耐震化 工事 《教育費○校舎等施設維持管理》 [教育企画課]	予算 決算	68,197 65,178	第二中学校及び第四中学校の格技場について耐震化工事を行った。
56	個別支援教室の運営 《教育費○特別支援教育推進》 [教育支援課]	予算 決算	22,808 17,553	通常の学級での学習において支援が必要な児童を対象に、個々の理解に合わせて、個別支援教室で教科の補習指導を実施した。平成30（2018）年度は第四小学校・桜野小学校に新設し、全小学校で実施した。
57	特別支援教室運用の実践的調査 研究 《教育費○特別支援教育推進》 [教育支援課]	予算 決算	898 611	平成29（2017）年度から導入した小学校の特別支援教室における課題を検証し、個々の教育的ニーズに応じた指導・支援の体制づくりを進めるため、大学の研究室と連携して実践的調査研究を行い、特別支援教室運用体制の強化を図った。
58	特別支援学級の運営 《教育費○知的障害学級運営、○難 聴・言語障害学級運営、○肢体不 自由学級運営、○院内病弱学級運営、 ○情緒障害学級運営》 [教育支援課]	予算 決算	95,048 85,542	知的障害、難聴・言語障害、肢体不自由、院内病弱、情緒障害などの障害種別ごとに10校14学級の特別支援学級を運営した。平成30（2018）年度は、特別支援学級の児童数増加に伴い、スクールバスを1台増台した。また、難聴・言語障害及び情緒障害学級の改修工事を行った。

59	学校給食施設の整備 《教育費○一般管理経費》 [教育支援課]	予算 決算	145,822 132,629	児童・生徒数の増加に対応し市立小・中学校に給食を安定的に供給するため、本宿小学校の調理施設について改修工事を行った。また学校給食桜堤調理場の建替えに向けて、新施設の基本設計、実施設計を実施した。
----	--	----------	--------------------	---

Ⅲ文化・市民生活

(1) 地域社会と市民活動の活性化

1	コミュニティ未来塾むさしの 《総務費○コミュニティセンターの管理運営・コミュニティ活動》 [市民活動推進課]	予算 決算	800 800	地域において、さまざまな団体が連携してコミュニティづくりを進めるためのスキルをつける「学び」の場について、市民と職員が共に考えるプロセスを踏み、市民と行政がともに学ぶ連続講座を開催した。第四期講座：25人、第五期講座（応用編）：13人参加。
2	コミュニティセンターの管理運営及びコミュニティ活動 《総務費○コミュニティセンターの管理運営・コミュニティ活動》 [市民活動推進課]	予算 決算	457,333 387,094	市民によるコミュニティづくりが安全な環境の中で活発に行われるよう、16のコミュニティ協議会によるコミュニティセンターの管理運営の支援、各館の維持にかかる改修・修繕等を行った。また、第四期コミュニティ評価委員会を設置した。
3	バリアフリー化の促進 《総務費○コミュニティセンターの管理運営・コミュニティ活動》 [市民活動推進課]	予算 決算	65,691 54,577	コミュニティセンターのバリアフリー化を促進し、だれもが利用しやすい施設とするため、御殿山コミュニティセンターのエレベーター設置工事を行うとともに、けやきコミュニティセンター・桜堤コミュニティセンターのエレベーター設置に向けた実施設計委託を行った。

(2) 互いに尊重し認め合う平和な社会の構築

4	平和啓発事業 《総務費○平和・憲法啓発事業》 [市民活動推進課]	予算 決算	3,594 2,353	戦争の悲惨さや平和の尊さを次世代に伝えていくため、様々な平和啓発事業を市民（実行委員会）との協働により実施した。8月には、夏季平和事業（一般向け及び子ども向け）として映画会や読み聞かせ、パネル展などの開催、11月には平和の日イベントとして講演会のほか戦時中の食の体験などを実施し、平和意識の向上を図ることができた。5月の憲法月間記念行事では講演会を開催し、市民に憲法への関心と認識を深めてもらう講演会を行った。
5	第四次男女平等推進計画策定 《総務費○男女平等推進施策事業》 [市民活動推進課]	予算 決算	2,970 3,002	武蔵野市男女平等の推進に関する条例に基づき武蔵野市男女平等推進審議会の答申をうけ、第四次男女平等推進計画を策定した。策定にあたっては、昨年度に実施した市民意識調査・職員意識調査に加え、パブリックコメント・市民意見交換会を実施し、より広く市民意見を求め計画に反映させた。

(3) 市民文化の醸成

6	文化振興基本方針の策定 《総務費○文化振興基本方針の策定》 [市民活動推進課]	予算 決算	2,876 2,347	文化を振興し文化で地域の持続的な発展を目指すことを目標とし、文化振興に関する方針の策定に向け、昨年度に引き続き、策定委員会（4月～9月、3回）にて検討を行った。11月に本市として初めてとなる、文化振興基本方針を策定した。
7	武蔵野アール・ブリュット2018の開催 《総務費○吉祥寺美術館の管理運営》 [市民活動推進課]	予算 決算	2,640 2,640	実行委員会方式による企画・運営で、“「描かずには／創らずにはいられない」ストーリーに迫る”をテーマに、既成の表現方法にとらわれずに独自の手法と発想で制作された美術作品（アール・ブリュット）展を開催した。来場者 延 1,712人

(4) 市民の多様な学びやスポーツ活動への支援

8	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等に向けた武蔵野市実行委員会 《総務費○東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等関連事業》 [企画調整課]	予算 決算	5,000 4,968	市内80団体（市含む）による実行委員会総会と4つの分科会を平成29（2017）年より引き続き設置、市民が主体となってスポーツボランティア『HANDS』の立ち上げなどをはじめ、様々な事業を展開した。 ・参加団体数：80団体 ・参加委員数：100人 ・総会：1回開催 ・分科会：各2～3回ずつ開催
9	市の魅力再発見・発信事業 《総務費○東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等関連事業》 [企画調整課]	予算 決算	4,990 4,990	平成29（2017）年度に実施した市民ワークショップ、市の魅力写真公募、成蹊・亜細亜大学生による外国人インタビューなどを経て、外国人に対して市の魅力を発信するパンフレット及び動画を作成した。 ・市民ワークショップ：1回開催（参加者42人）
10	Sports for All 事業 《総務費○東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等関連事業》 [企画調整課]	予算 決算	10,000 8,506	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等に向けたイベントを「Sports for All」という名称で実施。体験や体感を通して市民が感動を得る機会の提供を行った。 参加者数：ラグビー（744人）、パラ・フェスタ（585人）、カヌー（571人）、水球（394人）、ルーマニア・パラ（308人）
11	市立小中学校パラリンピック教育支援 《総務費○東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等関連事業》 [企画調整課]	予算 決算	5,832 3,868	2020年大会を目指す障害者アスリート、又はパラリンピック競技団体による体験学習。体験学習を通じたパラスポーツと障がいの理解醸成を行った。 実施校：市立小学校11校、市立中学校4校 内訳：ボッチャ4校、シッティングバレーボール3校、ブラインドサッカー及び視覚障害者マラソン8校
12	生涯学習計画の改定に向けた基礎調査 《教育費○一般管理経費》 [生涯学習スポーツ課]	予算 決算	3,000 2,992	市民の学びに関するアンケート調査を以下の方法で実施。 「生涯学習に関する調査報告書」及びその概要版を作成した。 ①市民向けアンケート調査（郵送） 791/2,500（回収率31.6%） ②団体向けアンケート調査（郵送） 142/200（回収率71.0%） ③モニター調査（ウェブモニター調査）回収数500サンプル ④ヒアリング調査 武蔵野市民会館運営委員会、武蔵野市文化財保護委員・歴史公文書等管理委員、武蔵野市で活動する障害者団体・ボランティア団体（知的・精神・身体）
13	むさしのサイエンスフェスタ 《教育費○学級・講座開催事業》 [生涯学習スポーツ課]	予算 決算	2,988 1,975	総合体育館を会場に市立小・中学校教員や地域ボランティア、地元の大学や企業等の協力を得て科学実験ブースを設置し、広く小・中学生に科学の不思議さ、面白さを体験する機会を提供し、学ぶ意欲の向上を図った。 来場者は約1,400人と盛況であった。地域と学校教育が連携しながら、身近な科学実験を体験できるイベントとして定着してきている。
14	文化財保護普及事業 《教育費○文化財保護普及事業》 [生涯学習スポーツ課]	予算 決算	23,495 21,159	文化財の保存と活用を目的に、文化財保護委員会議の運営、埋蔵文化財・民俗資料等の調査・研究を行った。28年ぶりの市文化財の指定（蓮乗寺の仙路翁墓碣碑、杵築大社の武蔵野八景碑）を行い、平成17（2005）年以来、未刊行となっていた埋蔵文化財発査報告書を発行した。また、考古学連続講座、古文書解説講座、むさしのばやしちびっこ教室、むさしの発見隊などの講座を実施した。

15	武蔵野ふるさと歴史館の管理・運営 《教育費○武蔵野ふるさと歴史館の管理運営》 [生涯学習スポーツ課]	予算 決算	64,736 59,781	武蔵野ふるさと歴史館第2期管理運営基本方針に基づいた館運営を行い、常設展示・企画展示のほか、各種の講座を実施した。米国国立公文書館より収集した中島飛行機関連資料の翻訳等を行い、新たな事実の発見につながる基礎づくりを行った。歴史公文書についても、職員への研修や講演会を実施することにより公文書の移管・廃棄のルールの徹底を行った。また、市立小学校3年生を対象とした学校連携事業は、12校全校が来館した。フェローシップ（特別研修員制度）の創設や学芸員実習の受け入れ等の人材育成・社会貢献事業を開始した。さらに、フェイスブック、ツイッターによる新たな広報活動も導入した。
16	土曜学校事業 《教育費○土曜学校事業》 [生涯学習スポーツ課]	予算 決算	2,246 1,896	学校の授業ではなかなか学べない体験を中心とした学習の場として、小・中学生を対象に、学校休業日の土曜日に16種類（スポーツプログラム・武蔵野プレイス実施分を含む）の講座を実施した。 定員を超える応募が多く、学校の授業ではなかなか学べない体験を中心とした学習の場として認知されている。
17	図書館基本計画の改定 《教育費○一般管理経費》 [図書館]	予算 決算	2,677 2,484	図書館を取り巻く環境変化に伴う諸問題への対応や、平成30（2018）年度より指定管理者制度を導入した吉祥寺図書館の管理運営状況を踏まえ、図書館における今後の施策などを着実に実施するため、2か年での図書館基本計画の改定作業を行った。
18	吉祥寺図書館のリニューアル（指定管理者制度の導入） 《教育費○吉祥寺図書館の管理運営》 [図書館]	予算 決算	141,838 141,432	吉祥寺図書館のリニューアル開館に併せ、同館に指定管理者制度を導入し、開館日・開館時間を拡大するとともに、積極的な吉祥寺地域の資料収集・提供、地域のイベントとコラボした資料展示やイベントなどを行った。年間来館者数は約4割増え、約60万人の方にご利用いただいた。
19	ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイスの管理運営 《教育費○一般管理経費》 [生涯学習スポーツ課]	予算 決算	547,767 501,481	「図書館」をはじめとした「生涯学習支援」、「市民活動支援」、「青少年活動支援」の4つの機能を併せ持つ活動支援型の複合施設として管理運営及び各種事業を行った。 平成30（2018）年度年間来館者数 約192万人 図書館機能と青少年活動支援機能の連携事業やプレイスフェスタなど、複合機能施設としての特徴を生かした館内機能連携事業に取組んだ。
20	運動習慣定着化に向けた取り組み 《教育費○各種体育事業》 [生涯学習スポーツ課]	予算 決算	500 554	平成29（2017）年度に実施した調査結果に基づき、全国的に運動実施率が低い20～50代の女性を対象としてストレッチのイベントを開催した。忙しくて運動やスポーツに時間を割くことが難しい方に対して、場所を問わず短時間で気軽に取り組むことができるストレッチを推奨し、効果的・効率的で、正しい方法を伝えることができた。 ・事業名： 運動していない女性のための絶対に効果が出るストレッチ ・日時：平成31（2019）年3月3日（日） 午後2時30分～4時 ・場所：武蔵野総合体育館メインアリーナ ・参加者数：①フロア189人 (運動をしていない20～50代の市内在住・在学・在勤の女性) ②観客席80人（当日先着順） ・講師：中野ジェームズ修一氏 (PTI認定プロフェッショナルフィジカルトレーナー)

21	市立小・中学校体育授業への支援 《教育費○各種体育事業》 [生涯学習スポーツ課]	予算 決算	500 492	子どもたちがスポーツを好きになり、体力・運動能力を向上していただけるよう、タグラグビーの導入支援、バレーボール実技、オリンピック教育の講話など、市立小・中学校に向けて体育の授業支援を行った。 【タグラグビー】 ・教職員向講習会 7月31日、8月1日、午前9時～正午 参加者人数18人 ・授業導入支援 実施校：9校23クラス、指導：学芸大学鈴木秀人教授 ・アトラスターズ、アルテミ・スターズ、成蹊大学ラグビー部選手交流 【バレーボール】 ・実施校：14校39クラス、講師：櫻井由香氏 (オリンピック)
22	陸上競技場第三種公認検定のための改修工事等 《教育費○体育施設一般管理経費》 [生涯学習スポーツ課]	予算 決算	145,025 106,527	5年毎に更新が必要な陸上競技場の第三種公認検定を受けるため、改修工事と備品の購入を行った。平成31(2019)年3月16日に公認検定の検査を受けた。 ・工事内容： 走路の洗浄、トップコート、段差修正 助走路などの既存舗装の切削及び新たな表面層の施工 砲丸投サークルのコンクリート打ち直しと落下域の整地 円盤・ハンマー投げサークルの塗装の直し 角石の据え直し、ラインマーキング など ・公認有効期間：平成31(2019)年4月1日から 令和6(2024)年3月31日まで
23	陸上競技場3階観覧室の改修及びスコアボードの設置工事 《教育費○体育施設一般管理経費》 [生涯学習スポーツ課]	予算 決算	23,365 18,792	スポーツ振興計画一部改定に基づき「観るスポーツ・体験するスポーツ」を推進するため、平成29(2017)年度に引き続き陸上競技場の3階観覧室の改修を行った。 ・工事内容 間仕切りの設置、サッシ窓の改修など
24	ラグビーゴールの更新及び設置基部の補強 《教育費○体育施設一般管理経費》 [生涯学習スポーツ課]	予算 決算	11,220 6,326	スポーツ振興計画一部改定に基づく「観るスポーツ・体験するスポーツ」の推進に向けて、既存の高さ9mのラグビーゴールを13mに更新し、既存の設置基部を補強した。
25	陸上競技場の芝の張り替え工事 《教育費○体育施設一般管理経費》 [生涯学習スポーツ課]	予算 決算	40,500 38,772	スポーツ振興計画一部改定に基づく「観るスポーツ・体験するスポーツ」の推進に向けて、陸上競技場の芝の一部(工事範囲3,811㎡)を張り替え、コンディションの改善を図った。

(5) 地域の特性を活かした産業の振興

26	勤労者互助会補助 《労働費○勤労者互助会の運営補助》 [生活経済課]	予算 決算	20,286 20,286	市内の中小企業の事業主及び勤労者を対象に福利厚生事業等を行う武蔵野市勤労者互助会に対し、安定した運営を支援するため、補助金を交付した。
27	認定農業者経営改善支援補助事業 《農業費○農業振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	5,000 5,551	認定農業者が5年後の経営改善目標を達成するため、農機具材購入等の基盤整備を行う場合、1戸あたり年間50万円を上限に経費の1/2以内を補助した。 実績が当初想定を上回ったため、決算額が当初予算額を上回っている。
28	こうのとりベジタブル事業 《農業費○農業振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	2,539 2,107	出産を機に食の安全と市内農業への理解を深めてもらうことを目的に、新生児が誕生した家庭に市内産農産物引換券を贈った。また平成30(2018)年度は直売所マップを全面改訂し、利用の促進を図った。 野菜券印刷47,736円、直売所マップ作成496,800円、野菜代1,562,000円

29	登録農地育成事業 《農業費○農業振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	2,000 1,488	農地保全を図ることを目的に、5 a以上の農地を所有する農家と10年間の農地保存協定を締結し、農機具材購入等に要する経費の一部を補助した。補助率1/2、5 aあたり5万円、80万円を限度。10年間に2回を上限。
30	都市農地保全支援プロジェクト事業 《農業費○農業振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	3,703 4,941	農地の持つ防災や環境保全などの多面的機能をより発揮させるとともに、地域住民に配慮した基盤整備により貴重な都市農地の保全を図った。事業費の1/8を補助した。都は3/4を補助。
31	都市農業活性化支援事業 《農業費○農業振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	2,148 2,147	都市に必要な貴重な農地を保全し、意欲ある次世代の担い手に農業を継承・支援していくため、認定農業者に対し生産・加工施設や農業用機械などの施設整備費として事業費の1/4を補助した。都は1/2を補助。
32	市民農園維持管理事業 《農業費○市民農園の管理運営》 [生活経済課]	予算 決算	13,103 12,339	園芸を通じて土に親しむとともに、市民相互の交流親睦の場でもある8市民農園の維持管理を行った。 平成30(2018)年度末現在利用状況、市民農園8か所692区画
33	創業支援 《商工費○商工振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	9,188 8,431	むさしの創業支援コーナーでは創業希望者への情報提供、相談受付等を行うとともに、市内の創業支援機関の連携の拠点として継続的な支援を実施した。また、市内の民間創業支援施設の運営に対して補助を行った。(平成30(2018)年度で補助金は終了)
34	Musashinoごちそうフェスタ 《商工費○商工振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	4,275 4,275	「食」に関する情報発信と飲食・食品関連業の活性化、観光振興を目的に、商工会議所が主催する「武蔵野の食」をテーマにした市民参加型のイベントを支援した。
35	新・元気を出せ商店街事業 《商工費○商工振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	44,085 40,875	東京都と連携した「新・元気を出せ商店街事業」を実施し、商店会が主催するイベント事業等への支援を行い、商業の振興を図った。 ・イベント事業 18件 33,609千円 ・活性化事業 3件 7,266千円
36	商店会組織力強化のための企画提案型補助金 《商工費○商工振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	6,000 6,000	市内商店会が各地域の特性に合わせた活性化事業を自ら考え実施できるよう、商店会が組織力を必要とする商業活性化事業の企画を募り、補助事業相談会による審査を経て、実施が決定されたものについて補助を行った。 実施件数：9事業
37	武蔵境活性化委員会補助事業 (商工会議所補助事業) 《商工費○商工振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	3,040 3,040	「ほっとタウン武蔵境」をキーワードに活動する武蔵境活性化委員会の運営及び地域を活性化する事業の実施にかかる経費を補助した。
38	産業振興計画策定 《商工費○商工振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	6,403 6,170	平成29(2017)年度に行った基礎調査の内容を踏まえ、市内産業振興施策の方向性について具体的な検討を行い、計画を改定した。(策定委員会10回開催、視察1回)
39	路線商業活性化総合支援事業 《商工費○路線商業活性化総合支援事業》 [生活経済課]	予算 決算	6,600 6,600	路線商店街の「にぎわい」「ふれあい」の創出や活力ある商店街づくりのために、複数の路線商店会が実施するスタンプ等共同事業等を支援した。スタンプ事業は中央地区の「むちゅースタンプ」、武蔵境地区の「ファミリースタンプ」として地域住民に定着し、各地区の商業振興に不可欠な存在となっている。

40	中小規模事業者等への補助事業 《商工費○利子補給等事業》 [生活経済課]	予算 決算	67,899 52,352	中小規模事業者及び創業間もない（予定も含む）事業者の経営の安定と事業の発展を図るため、融資利用者に対して利子補給及び信用保証料の補助を行った。 ・中小規模事業者事業資金融資利子補給 1,623件 29,967,716円 ・中小規模事業者事業資金融資信用保証料補助 134件 12,561,278円 ・小規模事業者経営改善資金融資利子補給 241件 5,574,487円
41	武蔵野・三鷹・小金井魅力向上プロジェクト 《商工費○観光振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	5,000 4,601	3市の行政・観光団体・市民・事業者が連携してそれぞれが持つ経験やノウハウを生かし、共通に持つ資源を発掘・活用するために、市民や事業者の交流の活性化・地域資源の調査研究・情報発信・パイロット事業の検討等を行った。
42	まちの魅力発信と観光客受入環境の整備 《商工費○観光振興事業》 [生活経済課]	予算 決算	71,254 69,170	武蔵野市観光機構と連携し、多様なまちの魅力を積極的に情報発信するために、案内マップのリニューアルや地域のアニメ作品と連携したイベントの開催等を行うとともに、ガイド育成や外国語メニュー作成支援など増加する観光客に対する受入環境の整備も行った。 ・観光推進機構委託料 46,120千円 ・吉祥寺イベント事業補助金 8,235千円 ・中央地区イベント事業補助金 1,727千円 ・武蔵境地区イベント事業補助金 990千円 ・観光インフラ整備支援補助金 12,098千円

(6) 都市・国際交流の推進

43	市報の多言語化 《総務費○一般管理経費》 [交流事業課]	予算 決算	584 551	在住外国人支援、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を展望し、インバウンド対策の一環として秘書広報課と共管で市報の多言語化を実施した。 具体的には市報むさしのを10言語に変換できるソフトウェアを導入し、ウェブ上に翻訳した市報記事を掲載して市政情報を提供した。
44	アメリカ・ラボック市の相互交流事業 《総務費○アメリカ・ラボック市との相互交流事業》 [交流事業課]	予算 決算	3,292 2,589	アメリカ合衆国ラボック市の中学生16人・引率者5人が来訪し、市役所表敬訪問、都内見学、第三中学校での交流会、市内見学、亜細亜大学訪問交流やホームステイを行い交流を図り、本市の青少年にとっても国際理解を深める機会が得られた。 ・期間：6月5日～11日
45	韓国との相互交流事業 《総務費○韓国との相互交流事業》 [交流事業課]	予算 決算	2,765 1,974	忠州市 ・中高生12人、引率者3人を派遣した。期間中、韓国文化体験のほか、ホームステイを2泊実施するなど現地の青少年との交流が図られた。 期間：8月2日～6日 ソウル特別市江東区 ・スポーツ少年団が来訪し、本市の少年野球チームと交流試合を行った。 期間：5月11日～13日 ・中高生12人、引率者3人が来訪し、都内見学、ホームステイなどを通じて交流を図ることができた。 期間：8月30日～9月3日
46	ルーマニア・ブラショフ市との交流事業 《総務費○ルーマニア・ブラショフ市との交流事業》 [交流事業課]	予算 決算	8,991 6,926	ブラショフ市に設置している日本武蔵野センターを拠点に、日本語教室や日本文化紹介イベントなどを継続して開催した。

47	友好都市交流事業 《総務費○友好都市交流事業》 [交流事業課]	予算 決算	4,815 3,263	国内友好都市間の交流ツアーや友好都市宿泊施設の利用助成を通じて、市民レベルでの交流促進を図った。南砺市、遠野市、酒田市への市民ツアーを行った。
48	ホストタウン事業の推進 《総務費○ホストタウン事業の推進》 [交流事業課]	予算 決算	8,983 6,966	ホストタウンを市民に啓発するため、イベントでのブース出展、ルーマニアの生活文化を紹介する講座・展示等を行った。文化交流市民団（市民29人、引率者3人）をブラショフ市へ派遣し、ルーマニアブラショフ市民への日本文化の発信、ホストタウン・友好都市の周知を行うとともにブラショフ市民と交流イベントを実施し、一層の市民同士の交流を進めた。期間：9月17日～23日 また、ルーマニアパラアスリート応援募金を活用してパラアスリート3人を含む、6人の選手団を招聘し、強化練習の支援・学校訪問や市民交流を行った。
49	友好都市アンテナショップ運営事業 《商工費○友好都市アンテナショップ運営事業》 [生活経済課]	予算 決算	12,357 14,077	友好都市のPRや物産品の販売、観光情報の発信などを行う友好都市アンテナショップを運営し、友好都市との交流、親善の拠点の役割を担うとともに、地元商店街の活性化に寄与している。平成30（2018）年度では、創業以来初の店内大規模改装工事を行った。

(7) 災害への備えの拡充

50	特定緊急輸送道路沿道建築物耐震化促進事業 《土木費○住宅対策事業》 [住宅対策課]	予算 決算	881,631 274,895	特定緊急輸送道路沿道建築物の耐震化を促進するため、耐震化（補強設計・耐震改修）に要する費用の一部を助成した。 【補強設計 1件】 【耐震改修 4件】
51	民間住宅等耐震化促進事業（耐震アドバイザー派遣・耐震化助成） 《土木費○住宅対策事業》 [住宅対策課]	予算 決算	107,269 41,234	令和2（2020）年度末までに住宅の耐震化率95%を達成するため、住宅やマンションの耐震化に要する費用の一部助成や専門家を派遣し住宅の耐震化を支援するとともに、耐震化促進アクションプログラムに基づいた戸別訪問等普及啓発活動を実施した。 【アドバイザー派遣 相談 11件、簡易診断 46件、安心パック19件】 【民間住宅耐震化助成 診断 8件、設計 10件、改修・建替え 11件、除却 32件】 【アクションプログラムに基づく戸別訪問 特定・一般緊急輸送道路沿道】
52	酒田市消防団との友好消防団盟約30周年記念式典の開催 《消防費○一般管理経費》 [防災課]	予算 決算	3,538 1,720	10月20日に酒田市、武蔵野市両市115人で武蔵野市にて友好消防団盟約30周年記念式典を開催し、両市消防団の友好を深めた。
53	北多摩地区消防大会の開催 《消防費○一般管理経費》 [防災課]	予算 決算	6,795 2,821	9月30日に北多摩地区の17市の消防団が総合体育館で消防大会を開催した。市内をポンプ車等40台でパレードを行った。
54	消防団第4分団詰所の改築 《消防費○消防施設維持管理》 [防災課]	予算 決算	64,173 51,207	消防団第4分団詰所改築のために吉祥寺北町2丁目に仮詰所を建て、分団機能を仮詰所に移し、第4分団詰所の解体を行った。
55	計画的な消火栓の改修工事 《消防費○防火水槽・消火栓維持管理》 [防災課]	予算 決算	47,650 44,102	計画的に古い消火栓を更新し、災害時に確実に使用できるよう、平成30（2018）年度は23か所の消火栓を改修した。

56	帰宅困難者対策の充実 《消防費○災害対策用器具機材備蓄品整備》 [防災課]	予算 決算	1,629 1,459	市内三駅における帰宅困難者対策のうち、吉祥寺駅周辺施設等と一時滞在施設としての利用に関する協定を締結したことにより、受け入れ可能な帰宅困難者数が増加した。これに伴い、増加分と合わせて4,000人分の帰宅困難者対策備蓄品の整備を平成29（2017）年度より4か年で進めている。平成30（2018）年度は飲料水と食料（クラッカー）の整備を行った。
57	防災行政無線デジタル化 《消防費○防災施設整備事業》 [防災課]	予算 決算	93,718 81,484	固定系防災行政無線のデジタル化を進めている。平成29（2017）年度に設計を行い、平成30（2018）年度より3か年の工事を実施中。デジタル化の対象となる機器は市役所に設置している親局、統制台と市内47か所に設置している拡声子局で、平成30（2018）年度は、親局、統制台及び拡声子局2基の工事を実施した。
58	防災情報システム更新検討業務 《消防費○防災施設整備事業》 [防災課]	予算 決算	5,000 2,582	専門事業者にシステム仕様やシステムの取扱いがある事業者についての調査を委託した。令和2（2020）年度中の新システム稼働に向けて、令和元（2019）年度に事業者選定を行う。
59	災害時の通信体制強化 《消防費○防災施設整備事業》 [防災課]	予算 決算	11,718 9,378	MC A無線が入りにくい建物密集地域等での通信を考慮し、I P無線機58台を整備した。駅周辺での混乱防止活動等での利用を想定しており、平成31（2019）年3月に実施した帰宅困難者対策訓練で利用した。

(8) 多様な危機への対応の強化

60	生活安全対策事業 《総務費○生活安全対策事業》 [安全対策課]	予算 決算	120,886 119,057	ホワイトイーグル、市民安全パトロール隊、吉祥寺ミッドナイトパトロール隊などの見守り・警戒活動により、市内の刑法犯認知件数は戦後最少を記録し、また重大凶悪犯罪の発生も抑止できた。 吉祥寺繁華街においても、ブルーキャップの巡回活動により、執ような客引きは一定程度まで抑えられた。
61	消費生活センターの管理運営 《商工費○消費生活センターの運営事業》 [生活経済課]	予算 決算	18,468 16,913	消費生活センターの運営、管理のほか、各種講座や消費者被害未然防止のための広報・周知活動を行い、消費生活の向上を図った。 ・消費生活相談：1,330件 ・消費生活講座：8回、うち1回見学会、受講者延363人 ・消費者スクール：講座10回、受講者20人 ・夏休み親子教室：2回、受講者延36組78人 ・消費生活展：9月28日（金）～29日（土）、武蔵野プレイス ・消費者団体への助成：1回 ・悪質商法被害防止街頭キャンペーン：3月22日（金）、コピス吉祥寺ふれあいデッキこもれび ・消費者被害未然防止のための出前講座：8回、受講者延268人 ・むさしのFMによる放送：毎日2回 ・リーフレットの作成と全戸配布：2種類、計97,000枚

IV緑・環境

(1) 市民の自発的・主体的な行動を促す支援

1	水の学校関連事業 《一般会計 衛生費○一般管理経費》 《下水道事業会計 下水道費○一般管理経費》 [下水道課]	予算 決算	2,268 1,701	水循環・水環境の保全等に関する連続講座6回及びオープン講座&イベントを実施（環境部、水道部等と連携、サポーター企画あり） 参加者（サポーター・オブザーバー含む）：連続講座延224人、環境フェスタ下水道課ブース約100人など。
---	--	----------	----------------	---

2	むさしの環境フェスタ 《衛生費○環境対策推進事業》 [環境政策課]	予算 決算	2,569 2,477	市内で活動する環境団体や事業者、庁内各課によるブース出展やワークショップ等を通じて、市民等への環境啓発を行った。「環境戦隊ステレンジャー」によるパフォーマンス、一人ひとりができる環境配慮の取組みをパネルに貼るワークなどを実施した。来場者約3,000人。
3	環境啓発施設の整備検討 《衛生費○環境対策推進事業、○武蔵野クリーンセンター建設事業》 [環境政策課、クリーンセンター【共管】]	予算 決算	32,895 22,101	エコプラザ（仮称）検討市民会議では、施設の理念や機能、運営、空間利用などについて議論し、平成30（2018）年8月に「検討のまとめ」を作成した。 11月には、「検討のまとめ」とパブリックコメント等による市民意見を基に、「武蔵野市エコプラザ（仮称）の整備に向けた市の基本的な考え方」を作成。 さらに、オープンハウス等を実施し、平成31（2019）年3月に「武蔵野市エコプラザ（仮称）管理運営方針」を決定した。 建物に関しては、施設改修工事実施設計を行った。 検討市民会議：9回 無作為抽出ワークショップ：案内送付2,000人、参加者：31人 環境市民団体アンケート：送付53団体、回答38団体 環境市民団体ワークショップ（2回）：案内送付59団体 参加計21団体 延44人
4	緑の保全サポート制度 《土木費○緑化推進事業》 [緑のまち推進課]	予算 決算	1,310 442	緑の保全サポート制度の担い手となる市民とともに、今後のグループ活動の参考にするため、杉並区で植栽の剪定・刈込み活動を行っているボランティア団体の代表（2人）を招き、意見交換を行った。また、技術向上のため市立4公園において刈り込み作業を実施した。
5	緑ボランティア団体事業助成 《土木費○緑化推進事業》 [緑のまち推進課]	予算 決算	4,020 3,219	市立公園などを拠点として緑の保全、緑化推進及び公園などの維持に関する活動を行っている緑ボランティア団体に対し、その事業経費の一部を助成し、団体の活動の発展を促すとともに、団体間の横の繋がりが広がりが図られるよう協議会を開催した。 【登録団体】 緑ボランティア25団体

(2) 環境負担低減施策の推進

6	エネルギー地産地消最適化事業 《衛生費○一般管理経費、○環境対策推進事業》 [環境政策課]	予算 決算	15,000 14,698	クリーンセンターの夜間に発電した電力を昼間に利用するなど、「地産地消エネルギー」のより効果的な利用のあり方を検討した。また、エネルギー地産地消の面的利用拡大の実現可能性を調査し、将来構想の検討を行った。
7	効率的なエネルギー活用推進助成事業 《衛生費○環境対策推進事業》 [環境政策課]	予算 決算	13,400 13,718	HEMS（ホームエネルギーマネジメントシステム）、太陽エネルギー利用設備、蓄電システム、窓断熱設備等の設置に係る費用を一部助成し、家庭のエネルギー「見える化」と二酸化炭素排出量の削減を図った。 HEMS：20件、エネファーム：118件、太陽光発電システム：11件、蓄電池：12件、既設窓断熱改修：46件
8	電気自動車の導入、運用 《総務費○車両の維持管理、衛生費○一般管理経費》 [管財課、環境政策課【共管】]	予算 決算	8,688 6,209	既存の天然ガス車1台を廃車し、電気自動車1台をリースにより導入した。また、11月に新設された東京都市町村総合交付金の政策連携枠を活用し、既存のガソリン車2台を廃車のうえ電気自動車2台を購入し、運用を開始した。燃料費削減及びCO2排出削減に寄与するとともに、電気自動車の充電には、クリーンセンターのごみ発電による夜間電力を有効活用し、エネルギーの地産地消を推進した。

(3) 「緑」を基軸としたまちづくりの推進

9	生物多様性基本方針の推進 《衛生費○環境対策推進事業》 [環境政策課]	予算 決算	6,620 3,089	平成29(2017)年度策定した「生物多様性基本方針」に基づき、体系的な生物生息状況調査を実施した。なお、本調査は平成30(2018)年度、令和元(2019)年度の2か年で実施する。 ・専門調査：秋季10月2～3日、冬季1月9～10日 ・簡易調査(市民参加の生物観察会)：2月16日(土)、参加者39人
10	緑の基本計画の改定 《土木費○一般管理経費》 [緑のまち推進課]	予算 決算	6,713 6,414	緑の基本計画の改定に向け、学識経験者を交えた検討委員会を4回(5月、8月、10月、3月)開催し、「方針」や「施策」などについて議論した。パブリックコメントやオープンハウスなどの実施を経て検討委員会より答申を受け、緑の基本計画の改定を行った。
11	公園等建設事業 (千川上水整備事業を除く) 《土木費○公園等建設事業》 [緑のまち推進課]	予算 決算	109,131 1,635,427	子どもたちの遊び場の充実を図るため西久保公園の木製複合遊具の更新や、バリアフリー基本構想後期特定事業計画に基づき境南ふれあい広場公園に視覚障害者誘導用ブロックを設置するとともに、南町苗木畑公園の公有地化を図った。また、良好な桜並木保全のため、老木化して不健全な桜の植替え工事を行った。
12	千川上水整備事業 《土木費○公園等建設事業》 [緑のまち推進課]	予算 決算	36,036 30,443	身近な自然とふれあう場として、地域に愛され親しまれる魅力ある水辺空間を創出することで緑と水のネットワーク形成を推進する。 平成30(2018)年度は、次年度以降の整備予定区間(緑町三丁目区間)について予備設計を行った。また、更新橋～西北浦橋までの220mの環境整備を行った。 【内容】 千川上水整備予備設計業務委託(令和元(2019)年度以降実施予定の予備設計) 千川上水整備工事(樹木の剪定や老朽化した擬木柵、土留めなど公園施設の改修、視点場の整備)
13	未来へ育て！苗木すくすく大木計画 《土木費○緑化推進事業》 [緑のまち推進課]	予算 決算	879 525	緑豊かな都市環境を創出するため、減少傾向にある民間の緑を育むことを目的とし、「一般配布」、「新築記念樹」など、配布方法及び対象を様々に展開していくことによって相乗的な緑化推進、啓発効果を図った。 【配布実績】 配布樹種：ハナミズキ、コブシ、シマトネリコ、モミジ、ヒメシャラ 新築記念樹 61本(6月、9月、12月、3月) 一般配布 47本(3月)
14	保存樹林等の指定 《土木費○緑化推進事業》 [緑のまち推進課]	予算 決算	12,229 12,036	民有地の緑を守る一環として、保存樹林等の指定制度により、所有者の適正な維持管理を支援するため、助成金の交付・樹木医などの派遣・倒木保険の加入を行った。 【保存樹林などの指定】 保存樹木総数1,043本、生垣総延長4,243m、保存樹林総数4か所、総面積7,018㎡ 【樹木診断】 4か所
15	二俣尾・武蔵野市民の森の充実と奥多摩の森林整備 《土木費○緑化推進事業》 [緑のまち推進課]	予算 決算	9,025 6,969	森林が持つ水源涵養、地球温暖化防止などの多面的機能に着目し、自然体験などから自然環境、自然保護の関心を高めるとともに、さまざまな主体と連携しながら市域を超えた森林保護・育成などを推進した。 【内容】 ・森林整備等業務委託など：「二俣尾・武蔵野市民の森に関する協定書」に定める協定区域7.02haのうち、森林整備区域4.09haの整備及び利用啓発区域2.93haの活用。森の市民講座の実施5回、森林整備啓発事業(自然観察会)の実施5回、二俣尾自然体験館及び管理棟の維持管理。 ・奥多摩・武蔵野の森の森林整備事業：「奥多摩・武蔵野の森に関する森林整備協定書」に定める協定区域のうち3.3haの保全整備。

16	仙川水辺環境整備事業 《土木費〇仙川水辺環境整備事業》 [緑のまち推進課]	予算 決算	18,532 16,769	「仙川リメイク」に基づき、自然護岸整備が終了した自然生態系復活ゾーンにおいて、既整備区間の維持管理及び今後の仙川整備のあり方を検討するため、「仙川水辺環境整備基本計画庁内検討委員会」の1年目を実施した。 【内容】 仙川水辺環境整備基本計画改定業務委託 仙川緑地外4か所維持管理委託（仙川緑地及び整備済み河川の維持管理作業委託）
----	---	----------	------------------	--

(4) 循環型社会システムづくりの推進

17	一般廃棄物処理基本計画改定 《衛生費〇ごみ減量と資源化推進事業》 [ごみ総合対策課]	予算 決算	3,240 3,186	新クリーンセンターの本格稼働及びごみ収集の在り方検討の結果を受け、令和2（2020）年以降を計画期間とする第六期長期計画の策定に合わせ、本計画を前倒して改定を行った。
18	小規模事業者に対する分別資源化調査指導事業 《衛生費〇ごみ減量と資源化推進事業》 [ごみ総合対策課]	予算 決算	7,992 7,992	事業系ごみを家庭ごみとして排出している事業者の調査・指導を実施し、適正排出率の向上を図った。市内約4,800件の小規模事業者のうち、必要な事業者に対して訪問指導を行った。訪問指導件数は当該年度46件。適正排出率は44%（平成19（2007）年度）から86%（平成30（2018）年度調査終了時）に向上した。
19	ごみ減量協働事業 《衛生費〇ごみ減量と資源化推進事業》 [ごみ総合対策課]	予算 決算	1,616 1,618	桜まつり、青空市でのごみ排出指導、分別案内所等のごみ減量施策を市民団体と協働事業として実施することにより、市民への更なる啓発を行い、ごみ減量の推進を図った。
20	3R環境講座 《衛生費〇ごみ減量と資源化推進事業》 [ごみ総合対策課]	予算 決算	1,095 449	食品ロスをテーマとして、クリーンセンターのイベントと同時開催で講演会を行った。また、その他啓発事業として、市内から排出されるごみ処理の過程を探る「夏休みごみ探検隊」と、環境フェスタにおける小型家電回収イベントを実施した。
21	ごみ収集総合的検討事業 《衛生費〇ごみ減量と資源化推進事業》 [ごみ総合対策課]	予算 決算	17,365 14,209	ごみ収集の在り方等検討委員会を4回開催。環境負荷削減と収集事業効率化に資する事業見直しについて検討し、最終報告書にまとめた。これを受け、平成31（2019）年4月から行政収集の見直しを実施するにあたり、ごみ便利帳を全面改訂するとともに「ごみと資源の収集カレンダー」を新規作成し、それぞれ全戸配布を行った。
22	レジ袋削減の推進 《衛生費〇ごみ減量と資源化推進事業》 [ごみ総合対策課]	予算 決算	2,398 1,680	レジ袋削減を推進するために協定を結んでいる市内のスーパー4店舗で、環境にやさしい買い物についての店頭キャンペーンを実施した。また、市内のコンビニでもキャンペーンを実施し、市内各商店街ではフラッグ、ポスター掲示を行うなど、全市的に取組みを行うことにより、市民の環境に対する意識の変化、ライフスタイルの変化を促した。
23	剪定枝葉資源化事業 《衛生費〇ごみ減量と資源化推進事業》 [ごみ総合対策課]	予算 決算	13,551 12,134	一般廃棄物として焼却されている剪定枝葉の一部を堆肥化して有効活用するとともに、燃やすごみの減量を図った。 平成30（2018）年度 搬入量 220 t
24	集団回収事業 《衛生費〇ごみ減量と資源化推進事業》 [ごみ総合対策課]	予算 決算	36,609 34,817	資源物の再利用の推進、ごみの減量及びごみ問題に対する市民の関心を高めるため、集団回収事業に対する支援を行った。 188団体 回収量2,832 t
25	ごみ組成分析調査 《衛生費〇ごみ減量と資源化推進事業》 [ごみ総合対策課]	予算 決算	4,180 2,851	家庭ごみの質的特徴を把握することでごみ減量化に向けた施策の基礎データを得ることを目的としている。平成30（2018）年度は、食品ロス対策の検討材料としての厨芥類及び小型家電対策としての不燃ごみについて重点的に調査した。
26	塵芥処理事業（収集委託料） 《衛生費〇塵芥処理事業》 [ごみ総合対策課]	予算 決算	1,287,106 1,281,424	家庭から排出される一般廃棄物の収集運搬について円滑に実施した。可燃ごみの収集運搬業務については、苦情対応等を行う緊急対応業務も含めて一体的に委託し実施した。

27	武蔵野クリーンセンター建設事業 《衛生費○武蔵野クリーンセンター建設事業》 [クリーンセンター]	予算 決算	868,652 864,392	旧クリーンセンター工場棟、事務所棟3階の解体を完了し、引き続き新管理棟及び連絡通路等の建設工事、工事監理委託等を行った。
28	武蔵野クリーンセンター施設・周辺整備事業 《衛生費○武蔵野クリーンセンター建設事業》 [クリーンセンター]	予算 決算	2,611 1,822	第四期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会で引き続き市役所北エリアの整備、周辺まちづくりのあり方等の検討を行い、報告書を作成した。 ・協議会（公開）2回、作業部会等（非公開）5回

(5) 生活を取り巻く様々な環境の変化に伴う新たな問題への対応

29	PCB廃棄物の処理 《衛生費○環境対策推進事業》 [環境政策課]	予算 決算	91,623 82,391	PCB廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法に基づき、PCB廃棄物を処理した。 ・平成30（2018）年度における高濃度PCB廃棄物処理量：2872.6kg
30	害虫等駆除対策事業・狂犬病予防事業 《衛生費○害虫等駆除対策事業、○狂犬病予防事業》 [環境政策課]	予算 決算	4,712 3,192	害虫対策については、スズメバチなど駆除109件、カラスの巣の撤去1件、ネズミ侵入防止対策説明会2回、ネズミ侵入防止対策支援事業6件を実施した。狂犬病予防事業に関しては、犬の新規登録327件、再交付51件、注射済票交付3,460件を行い、マナープレートの配付、犬のしつけ方教室を実施し、動物愛護啓発の推進と飼い主マナーの向上を図った。
31	公害対策・調査・処理 《衛生費○公害対策事業》 [環境政策課]	予算 決算	16,282 14,347	常時監視と随時調査による環境状況の把握、工場や指定作業場に対する指導、その他公害要因対象者への指導などを行った。公害苦情相談の受付対応を通じて、公害発生の未然予防、市内環境の保全を図った。 ・苦情の受付件数463件（大気26件、騒音106件、振動15件、悪臭17件、その他299件）
32	放射線に関する対策 《衛生費○放射線対策事業》 [環境政策課]	予算 決算	7,842 5,140	【子ども育成課、環境政策課、クリーンセンター、緑のまち推進課、教育企画課、指導課、教育支援課、水道部工務課】空間放射線量測定、水質検査、学校・保育園給食食材放射性物質検査及び落ち葉たい肥中の放射性物質分析調査などを実施した。測定を確実かつ継続的に実施することで、安全・安心を図ることができた。また、それらを市民に情報提供することで、不安の解消を行うことができた。

V都市基盤

(1) 地域の特性に合ったまちづくりの推進

1	景観道路事業 《土木費○景観道路事業》 [道路課]	予算 決算	115,300 105,343	景観整備路線事業計画に基づき、道路・電線共同溝の設計などを行った。 ・設計 市道第16号線外1路線電線共同溝詳細・道路予備設計委託 市道第85号線電線共同溝予備修正設計委託 無電柱化チャレンジ路線検討業務委託など ・負担金 三鷹補助幹線道路歩行者空間整備負担金（市道第129号線）
2	都市計画マスタープランの改定準備 《土木費○一般管理経費》 [まちづくり推進課]	予算 決算	5,109 4,644	令和2（2020）年度策定に向け、現行計画の進捗状況や前回改定からの変化、課題等の把握を行った。また、策定検討体制、市民参加手法、進捗確認手法、市民参加手法等を検討した。まちづくり委員会へのヒアリングも実施した。
3	都市計画に関する基礎調査等の実施 《土木費○一般管理経費》 [まちづくり推進課]	予算 決算	6,000 5,357	都市計画法第6条第1項に定める都市計画に関する基礎調査を行い、併せて武蔵野市における独自調査により、各種行政計画を立案するための基礎資料を作成した。

4	景観まちづくりの展開 《土木費○一般管理経費》 [まちづくり推進課]	予算 決算	2,000 1,572	景観啓発講演会として、「景観まちづくり講座」を実施した。屋外広告物セミナー（研究会）を開催し、吉祥寺活性化協議会会長と武蔵野市商店会連合会会長に報告を行った。
---	--	----------	----------------	---

(2) 都市基盤の更新

5	公共基準点測量 《土木費○台帳整備》 [道路課]	予算 決算	12,835 11,880	平成23（2011）年3月の東北地方太平洋沖地震に伴う地殻変動により生じた公共基準点のズレを補正するために、再測量（改測）及び必要な基準点を再整備する。 平成30（2018）年度は3級基準点新設56点の整備を行った。
6	小型街路灯LED化事業 《土木費○街路灯維持管理》 [道路課]	予算 決算	176,106 129,352	照度アップによる安全安心の向上及びCO2排出量削減等による環境負荷の軽減を図った。 平成30（2018）年度は1,927基の小型街路灯をLED化した。
7	道路新設改良事業 《土木費○道路新設改良事業》 [道路課]	予算 決算	378,018 342,351	経年劣化した主要道路等の改修を行った。 施工延長：1,113m 舗装面積：車道8,844㎡、歩道3,238㎡ 側溝延長：480m バリアフリー基本構想の道路特定事業として、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等の会場となる東京スタジアムへのアクセスが見込まれる武蔵境駅南口駅前広場のバリアフリー化を実施した。
8	環境舗装事業 《土木費○環境舗装事業》 [道路課]	予算 決算	87,000 86,121	生活道路改修の際に、透水性舗装を施工し、雨水の流出抑制や地下水の涵養を行った。また、道路浸透柵の新設を行った。 透水性舗装：延長584m、面積1,285㎡ 道路浸透柵：8基
9	橋りょう長寿命化事業 《土木費○橋りょう新設改良事業》 [道路課]	予算 決算	15,640 12,277	橋りょう長寿命化計画（第二次）に基づき、定期点検及び予備設計を行った。 ・橋りょう定期点検：8橋（本村橋 ほか7橋） ・予備設計：よろず橋

(3) 利用者の視点を重視した安全で円滑な交通環境の整備

10	放置自転車等対策業務 《土木費○自転車対策事業》 [交通対策課]	予算 決算	197,100 196,729	放置自転車等の放置防止指導・撤去・保管及び返還業務を行った。 ●放置自転車対策業務実績（自転車） ・駅前放置台数 90台（前年度比▲4台） ※ ・撤去回数 810回（前年度比+84回） ・撤去台数 3,386台（前年度比+16台） ・返還台数 2,006台（前年度比+65台） ※平日の午前・午後における、市内3駅（吉祥寺駅・三鷹駅・武蔵境駅）周辺の自転車等停留実態を把握するため毎年実施している調査。 上記数字は、午前10時における自転車放置台数。
----	--	----------	--------------------	--

17	都市計画道路の調査、検討 《土木費○一般管理経費》 [まちづくり推進課]	予算 決算	35,500 21,044	平成29（2017）年度に事業採択された「第三次みちづくり・まちづくりパートナー事業」に伴う都市計画道路の事業化等に向けた事業概要及び測量説明会を開催し、用地測量を実施した。また、予備設計と並行して警視庁と計画協議を行い、事業認可申請を行った。
18	都市計画道路の概略線図の更新 《土木費○一般管理経費》 [まちづくり推進課]	予算 決算	7,500 6,156	都市計画道路計画線の概略図全49図郭のうちの一部の図郭について更新するとともに、今後の更新作業を見据えてGISデータ化した。

(5) 下水道の再整備

19	下水道事業公営企業会計移行業務 《下水道事業会計 下水道費○一般管理経費》 [下水道課]	予算 決算	17,154 17,153	経営基盤の強化と財政マネジメントの向上を目的に、令和2（2020）年度に下水道事業を公営企業会計に移行するため、準備業務として平成30（2018）年度は固定資産調査、関係部署との役割分担や設置条例、予算科目・勘定科目等の検討を行った。
20	臭気抑制対策助成事業 《下水道事業会計 下水道費○一般管理経費》 [下水道課]	予算 決算	7,500 3,056	吉祥寺活性化協会を通じ、街と連携して臭気対策に取り組み、悪臭の原因となる地下排水槽（ビルピット）の改修改善に係る費用の一部を助成し、臭気の軽減を図った。 ・助成件数 7件
21	雨水浸透施設等助成事業 《下水道事業会計 下水道費○一般管理経費》 [下水道課]	予算 決算	30,500 34,715	住宅等に雨水浸透施設等を設置する方に対して助成金を交付し、雨水浸透施設等の設置推進を通じ治水、利水、水循環の推進を図った。 ・助成件数 雨水浸透ます 67件 （既設住宅 61件・新築住宅 6件） 雨水貯留タンク 16件
22	公営企業会計システム構築 《下水道事業会計 下水道費○一般管理経費》 [下水道課]	予算 決算	42,696 9,083	令和2（2020）年4月に下水道事業を公営企業会計に移行するため、公営企業会計方式に対応した予算決算作成、執行管理、固定資産管理等を行うシステムの構築を進めた。
23	下水道使用料等見直し業務 《下水道事業会計 下水道費○一般管理経費》 [下水道課]	予算 決算	5,366 4,536	下水道使用料等検討委員会を設置し、下水道使用料の改定等について検討を行った。 委員7人（学識経験者3人、市内事業者代表2人、公募市民2人） 委員会の開催：全3回（10月22日、1月22日、2月20日） 委員会答申の提出：3月15日
24	雨水浸透ます・排水設備台帳等データファイリング 《下水道事業会計 下水道費○一般管理経費》 [下水道課]	予算 決算	12,500 14,558	紙ベースのみの管理となっていた、雨水浸透ます・排水設備台帳等の情報に関して、デジタル化したことにより窓口業務の改善を行った。また、データベースを基に、排水設備届の提出状況などを下水道台帳図上で行えるようになった。 排水設備完了届出書：29,769件 雨水排水計画完了届出書：2,146件
25	公共下水道管きょ清掃・点検・調査 《下水道事業会計 下水道費○下水道維持管理事業》 [下水道課]	予算 決算	50,000 47,676	下水道施設の機能を維持し、清掃箇所や異常箇所を発見するため、巡視・点検・調査を行うとともに、土砂等の堆積物の清掃を実施した。 管きょ等巡視・点検 63,213m 管きょ等調査 1,033m 管きょ清掃 3,542m 施設清掃 10箇所
26	下水道建設負担金 《下水道事業会計 下水道費○公共下水道建設事業》 [下水道課]	予算 決算	66,654 50,373	本市が排出する汚水の処理を依頼している東京都水再生センター及び関連下水道幹線等の施設に係る建設費を負担した。 森ヶ崎水再生センター建設負担金 39,407千円 多摩川左岸野川流域下水道建設負担金 6,251千円 荒川右岸東京流域下水道建設負担金 4,716千円

27	公共下水道建設事業 《下水道事業会計 下水道費○公共下水道建設事業》 [下水道課]	予算 決算	104,203 50,928	設計：四軒寺交差点南側管きょ撤去に伴う実施設計他 工事：都市計画道路3・4・24号線管きょ築造工事、三鷹駅北口駅前広場管きょ築造工事他 負担金：都道113号線（四軒寺交差点東側）管渠築造工事負担金、主要地方道7号線（中央交差点）管渠築造工事負担金
28	雨水貯留浸透施設設置事業 《下水道事業会計 下水道費○公共下水道建設事業》 [下水道課]	予算 決算	9,753 8,153	近年増大している大雨による浸水被害軽減及び地下水の涵養を図るため、境南小学校雨水貯留浸透施設設置工事（令和元（2019）年度施工予定）の実施設計を行った。
29	女子大通り幹線管きょ更生工事 《下水道事業会計 下水道費○公共下水道建設事業》 [下水道課]	予算 決算	305,000 300,566	武蔵野市下水道長寿命化計画に基づき、本市の広範囲の処理区を受け持つ主要な管きょである女子大通り幹線について、更生工事を実施した。（6か年計画の最終年度。） 施工延長（製管工）L=約94m（一般部）、約19m（特殊部）
30	下水道ストックマネジメント計画の策定 《下水道事業会計 下水道費○公共下水道建設事業》 [下水道課]	予算 決算	29,938 31,676	下水道施設全体の、中長期的な施設の状態を予測しながら、維持管理・改築を一体的に捉えて計画的かつ効率的な管理を行っていくため、令和元（2019）年度の下水道ストックマネジメント計画の策定に向けて、実施方針の検討を行った。
31	石神井川排水区雨水幹線整備事業 《下水道事業会計 下水道費○公共下水道建設事業》 [下水道課]	予算 決算	15,338 15,339	老朽化した石神井川排水区の既設雨水管について、平成28（2016）年度に新設した雨水幹線φ2600mmへの切替を行うため、切替等に係る工事の設計を実施した。

(6) 住宅施策の総合的な取り組み

32	福祉型住宅管理人住戸の公営住宅化事業 《民生費○福祉型民間アパート借上事業》 [住宅対策課]	予算 決算	8,600 10,077	空室となっていた管理人住戸（武蔵野清岳苑、シティハウス吉祥寺、クレパール、シュロス武蔵野、エルベセッタ田家）の改修工事を実施し、公営住宅化（複数子育て世帯用4戸、子育て世帯用3戸、ひとり親世帯用1戸への変更）を図った。
33	住宅確保要配慮者住宅確保事業 《土木費○住宅対策事業》 [住宅対策課]	予算 決算	4,054 219	高齢者が民間賃貸住宅に転居する際に、所有者向けに①設備改修補助、②住宅管理保険の実施、③緊急通報装置の設置助成を、入居者向けに④信用保証会社利用料の助成、⑤定期的な見守りを実施することで、入居を拒まれない民間賃貸住宅を確保した。 【平成30（2018）年度実績（累計）】 入居件数6件
34	分譲マンション再生支援・管理アドバイザー派遣事業 《土木費○住宅対策事業》 [住宅対策課]	予算 決算	1,755 1,380	分譲マンションの再生（建替え又は改修）に向けた検討に要する費用の一部助成や管理組合等に専門家を派遣し、分譲マンションの適切な維持管理のための支援を行った。 【管理アドバイザー派遣 31件】 【再生支援 0件】
35	空き家対策のための計画策定 《土木費○住宅対策事業》 [住宅対策課]	予算 決算	5,281 4,366	平成29（2017）年度実施した空き家等実態調査から把握した空き家等の状況や所有者等の意識やニーズ等を踏まえ、空き家を重要なストックととらえ、各分野と横断的な連携を進めながら、空き家等の発生前から対策を講じていく予防対策に重点を置きつつ、適正管理や利活用を含めた計画を策定した。

(7) 三駅周辺まちづくりの推進

36	武蔵境駅南口広場 ムーバス・路線バス停留所上屋更新 《土木費○交通安全施設整備事業、 ○ムーバス運行事業》 [交通対策課]	予算 決算	26,595 22,568	武蔵境駅南口広場の整備に伴い、ムーバス停留所上屋建替工事の施工及び路線バス停留所上屋更新に対して補助金を交付した。 ・ムーバス停留所上屋建替 1基 ・路線バス停留所上屋更新 4基
----	---	----------	------------------	---

37	三鷹駅北口街づくりビジョンの推進 《土木費○一般管理経費》 [まちづくり推進課]	予算 決算	15,880 15,378	・土地利用、交通環境を検討し、交通量調査を実施した。 ・地元の意見交換会を5回実施した。 ・三鷹駅北口街づくりビジョン推進庁内委員会を開催し進捗管理を行った。
38	武蔵境開発事務所解体工事 《土木費○一般管理経費》 [まちづくり推進課]	予算 決算	19,851 12,456	組織改正により閉鎖された武蔵境開発事務所について、地元関係者に説明した上で、解体工事を実施した。また、家屋調査を工事前と工事後に実施した。
39	都市計画道路3・3・14号線南口駅前広場事業 《土木費○都市計画道路3・3・14号線南口駅前広場事業》 [吉祥寺まちづくり事務所]	予算 決算	72,200 10,276	道幅が狭く、バスと歩行者の接触の危険があるパークロードからバスの通行をなくし、歩行者優先の安全な道路を形成するため、吉祥寺駅南口に約1,900㎡の交通広場の整備を目指し、警視庁との協議に基づき基本設計を行うとともに、用地折衝を継続的に進めた。 ・用地買収率 47.72%（既道路部分を除く）
40	吉祥寺グランドデザインの改定 《土木費○吉祥寺駅周辺整備計画》 [吉祥寺まちづくり事務所]	予算 決算	10,908 11,136	策定から約10年が経過した「吉祥寺グランドデザイン」の令和元（2019）年度の改定に向けて、改定委員会、4エリアごとのワークショップ、庁内関係部署などによる丁寧な議論を重ねるとともに、オープンハウスを実施し、トークセッションとパネル展示を行った。

(8) 安全でおいしい水の安定供給

41	配水管網整備推進事業 《水道事業会計○配水管網整備推進事業》 [工務課]	予算 決算	306,089 254,416	災害時にも安全な水の安定供給ができるよう、配水管の新設や老朽管の更新など配水管路の耐震化を図り、平成30（2018）年度末の耐震化率が46.9%と前年度に比べ0.4ポイント上昇した。 ・工事内容 配水管新設工事 (5件) 279m 配水管（鉄管）改良工事 (4件) 675m 配水補助管改良工事 (5件) 674m 受託工事 (5件) 26か所
42	浄水場・水源施設維持更新事業 《水道事業会計○浄水場・水源施設改良事業》 [工務課]	予算 決算	97,070 131,003	円滑で効率的な水運用のため、経年劣化した浄水場施設を施設保全計画に基づき、維持・更新するとともに、安定的な取水量を確保するため水源施設更新計画に基づき、深井戸の更新工事を行い、安全でおいしい水の安定供給を図った。 ・工事内容 水源監視装置改修工事 第一浄水場ろ過設備改修工事 第一浄水場計装設備改修工事 外9件

VI行財政

(1) 市政運営への市民参加と多様な主体間の柔軟な連携と協働の推進

1	自治基本条例（仮称）の検討 《総務費○企画調整》 [企画調整課]	予算 決算	1,046 797	学識経験者、市議会議員、市民公募委員、副市長で構成する「武蔵野市自治基本条例（仮称）に関する懇談会」において、平成30（2018）年2月に公表した条例骨子案素案に対して市民・議員・職員から聴取した意見を踏まえ、条例に盛り込むべき内容をまとめた骨子案を10月に市長に報告した。市は報告を受けた骨子案を市の骨子とすることを決定し、骨子に基づいて条例の素案の作成を進めた。
---	--	----------	--------------	---

(2) 市民視点に立ったサービスの提供

2	公文書管理におけるセキュリティレベル向上事業 《総務費○文書管理》 [総務課]	予算 決算	13,798 12,565	マイナンバーを含む特定個人情報が記載された文書の保管について、安全性を確保するため、入退室管理システムの導入、防犯カメラの設置、鍵付きキャビネットの増設により、文書のセキュリティ管理を強化した。
---	---	----------	------------------	---

(3) 市民に届く情報提供と市民要望に的確に応える仕組みづくり

3	インターネットによる議会中継 (録画による配信等) 《議会費○議会運営》 [議会事務局]	予算 決算	6,658 6,275	広く市民に議会審議の様態を伝えるため、本会議、予算・決算特別委員会のインターネット中継を行った。 ・アクセス数 12,639件 (うち録画 2,459件)
4	議会だより発行 《議会費○議会だより発行》 [議会事務局]	予算 決算	4,645 3,518	市議会に関する情報を広く市民に伝え、市民の議会に対する関心を高めるため、議会だよりを年4回発行(4色刷・延24頁・344,000部印刷、延336,013部全戸配布)
5	市民と市長のふれあいトーク 《総務費○広聴活動》 [市民活動推進課]	予算 決算	806 156	市民との対話を通じて、地域の課題など、様々な意見や提案を聴き、今後の市政運営に活かすため「市民と市長のふれあいトーク」を平成30(2018)年度は4回(テーマ別2回・地域別2回)開催した。 テーマ別では市内で活動している団体、個人から特定テーマについて意見交換を実施するとともに、地域別においてはコミュニティ協議会と共催し、当該地域における地域課題等、参加者との対話を通じ、市民ニーズの把握等を行った。
6	武蔵野市の将来人口推計 《総務費○企画調整》 [企画調整課]	予算 決算	4,587 4,587	第六期長期計画策定にあたり、基礎データとして必要となる30年後までの将来人口推計を作成し、平成30(2018)年10月に公表した。

(4) 公共施設の再配置・市有財産の有効活用

7	公共施設等総合管理計画の推進 《総務費○資産活用事業》 [資産活用課]	予算 決算	1,800 2,162	公共施設等総合管理計画の周知を目的にワークショップ(全4回)を開催した。参加者同士にグループに分かれ、身近なサービスや公共施設などをテーマに、意見交換を行いながら、提案ポスターにまとめてポスターセッション形式で発表・共有した。参加申込者数88人。
8	市有地活用に関する公民連携可能性の調査 《総務費○資産活用事業》 [資産活用課]	予算 決算	7,841 0	吉祥寺東町一丁目市有地利活用の検討については、公民連携可能性調査(サウンディング調査)を委託によらず、市独自で行った。当該土地の利活用についてアイデアを提案していただき、対話を行った。対話事業者数:5社。
9	吉祥寺東町一丁目市有地の利活用検討 《総務費○資産活用事業》 [資産活用課]	予算 決算	0 842	福祉目的で遺贈を受けた吉祥寺東町一丁目市有地の利活用について、平成30(2018)年3月に策定した公民連携に関する基本的な考え方及び運用ガイドラインに基づき、地域住民を対象にワークショップを2回実施し検討を行った。参加申込者数30人。
10	公共施設劣化保全整備 《各款共通》 [施設課]	予算 決算	467,551 394,917	市庁舎、コミュニティセンター、障害者施設、保育園、小・中学校、生涯学習施設等について、劣化調査の結果に基づき保全整備を行い、施設の機能維持及び延命化を図った。
11	公共施設改良保全整備 《各款共通》 [施設課]	予算 決算	12,452 10,109	中央図書館、保健センター、桜堤ケアハウス等について防火シャッター挟まれ防止装置を設置した。

(5) 社会の変化に対応していく行財政運営

12	本会議等傍聴者用託児委託 《議会費○議会運営》 [議会事務局]	予算 決算	468 11	本会議等の傍聴時に、乳幼児を預かる託児サービスを実施した。開かれた議会を目指し、子育て世代がより傍聴しやすい環境を整備した。
----	---	----------	-----------	--

13	第六期長期計画策定 《総務費○第六期長期計画策定》 [企画調整課]	予算 決算	24,787 18,081	令和2（2020）年度からの10年間を展望した武蔵野市第六期長期計画を策定するため、第六期長期計画策定委員会を設置し、多様な市民参加を実施しながら検討を進めた。平成31（2019）年2月に討議要綱を公表し、パブリックコメント等を実施した。 ・第六期長期計画市民会議開催 ・中高生世代広場開催 ・無作為抽出市民ワークショップ開催 ・市議会各会派等との意見交換会開催 ・関係団体意見交換会開催 ・圏域別市民意見交換会開催 ・地域生活環境指標作成
----	---	----------	------------------	---

(6) チャレンジする組織風土の醸成と柔軟な組織運営

14	タブレット端末導入による議会のICT化推進 《議会費○議会運営》 [議会事務局]	予算 決算	2,968 2,400	議案、議案関連資料及び行政報告資料等について、タブレット端末を使用して迅速かつ効率的に情報伝達を行った。
15	住民情報系システム再構築作業 《総務費○住民情報系システム》 [情報管理課]	予算 決算	47,205 49,207	現行の住民情報システムについて、令和2（2020）年1月にサポートの切れるOSを入替え、新統合仮想化基盤上にシステムを移行した。
16	庁内情報システム基盤最適化事業 《総務費○住民情報系システム》 [情報管理課]	予算 決算	170,470 169,426	住民情報と内部統合のシステム基盤を現状から最適化した新統合仮想化基盤を整備し、運用コストの低減化とシステムリソースの利用効率化、セキュリティ向上や拡張性向上を図った。

Ⅱ 平成30年度基金の運用状況を示す書類

地方自治法第241条第5項の規定に基づき、平成30年度の基金の運用状況を報告します。

武蔵野市長 松下玲子

1 平成30年度国民健康保険高額療養費貸付金運用状況

(1) 年度開始現在高

(単位：円)

繰越現金	貸付未収金	未払金	計 (運用金)
3,000,000	0	0	3,000,000

(2) 運用状況

ア 現金収支の状況

(単位：円)

月別	収入額		支出額		差引残額
	収入額	累計	支出額	累計	
前年度繰越額		3,000,000		0	3,000,000
4	0	3,000,000	0	0	3,000,000
5	0	3,000,000	0	0	3,000,000
6	0	3,000,000	0	0	3,000,000
7	0	3,000,000	0	0	3,000,000
8	0	3,000,000	0	0	3,000,000
9	0	3,000,000	0	0	3,000,000
10	0	3,000,000	0	0	3,000,000
11	0	3,000,000	0	0	3,000,000
12	0	3,000,000	0	0	3,000,000
1	0	3,000,000	0	0	3,000,000
2	0	3,000,000	28,000	28,000	2,972,000
3	0	3,000,000	0	28,000	2,972,000
計	0		28,000		

イ 利子収入の状況

(単位：円)

上半期預金利子	14
下半期預金利子	14
計	28

(注) 上記の利子収入は、一般会計(15財、1財、2利、1利)へ納付

ウ 未収金及び未払金の状況

(単位：円)

未 収 金	未 払 金	差引債権額
28,000	0	28,000

(3)運用結果

(単位：円)

区 分	次年度繰越額
現 金	2,972,000
貸付未収金	28,000
未 払 金	0
計 (運用金)	3,000,000

2 平成30年度国民健康保険出産費資金貸付金運用状況

(1) 年度開始現在高

(単位：円)

繰越現金	貸付未収金	未 払 金	計 (運用金)
3, 000, 000	0	0	3, 000, 000

(2) 運用状況

ア 現金収支の状況

(単位：円)

月 別	収 入 額		支 出 額		差 引 残 額
	収 入 額	累 計	支 出 額	累 計	
前 年 度 繰 越 額		3, 000, 000		0	3, 000, 000
4	0	3, 000, 000	0	0	3, 000, 000
5	0	3, 000, 000	0	0	3, 000, 000
6	0	3, 000, 000	0	0	3, 000, 000
7	0	3, 000, 000	0	0	3, 000, 000
8	0	3, 000, 000	0	0	3, 000, 000
9	0	3, 000, 000	0	0	3, 000, 000
10	0	3, 000, 000	0	0	3, 000, 000
11	0	3, 000, 000	0	0	3, 000, 000
12	0	3, 000, 000	0	0	3, 000, 000
1	0	3, 000, 000	0	0	3, 000, 000
2	0	3, 000, 000	0	0	3, 000, 000
3	0	3, 000, 000	0	0	3, 000, 000
計	0		0		

イ 利子収入の状況

(単位：円)

上半期預金利子	14
下半期預金利子	14
計	28

(注) 上記の利子収入は、一般会計(15財、1財、2利、1利)へ納付

ウ 未収金及び未払金の状況

(単位：円)

未 収 金	未 払 金	差引債権額
0	0	0

(3)運用結果

(単位：円)

区 分	次年度繰越額
現 金	3,000,000
貸付未収金	0
未 払 金	0
計 (運用金)	3,000,000

3 平成30年度高額介護等サービス費貸付金運用状況

(1) 年度開始現在高

(単位：円)

繰越現金	貸付未収金	未払金	計 (運用金)
3,000,000	0	0	3,000,000

(2) 運用状況

ア 現金収支の状況

(単位：円)

月別	収入額		支出額		差引残額
	収入額	累計	支出額	累計	
前年度繰越額		3,000,000		0	3,000,000
4	0	3,000,000	0	0	3,000,000
5	0	3,000,000	0	0	3,000,000
6	0	3,000,000	0	0	3,000,000
7	0	3,000,000	0	0	3,000,000
8	0	3,000,000	0	0	3,000,000
9	0	3,000,000	0	0	3,000,000
10	0	3,000,000	0	0	3,000,000
11	0	3,000,000	0	0	3,000,000
12	0	3,000,000	0	0	3,000,000
1	0	3,000,000	0	0	3,000,000
2	0	3,000,000	0	0	3,000,000
3	0	3,000,000	0	0	3,000,000
計	0		0		

イ 利子収入の状況

(単位：円)

上半期預金利子	14
下半期預金利子	14
計	28

(注) 上記の利子収入は、一般会計(15財産収入、1財産運用収入、2利子及び配当金、1利子及び配当金、14市民生活総合基金利子収入)へ納付

ウ 未収金及び未払金の状況

(単位：円)

未 収 金	未 払 金	差引債権額
0	0	0

(3)運用結果

(単位：円)

区 分	次年度繰越額
現 金	3,000,000
貸付未収金	0
未 払 金	0
計 (運用金)	3,000,000